

日記6

熱応力

著名な洋菓子会社モロゾフ(三井物産の系列会社)のプリンを食べたことがある人は多いだろう。あのプリンはガラスの容器に入っているので貧乏くさい私などは、再利用できないかなどと考えるが、「壊れやすいので特に熱湯を入れないでください」と注意書きがある。へそ曲がりな私はさもありなんと熱湯を入れたらやはり熱湯の液位で破断した。やはりと言ったのは、熱応力は一般に、容器壁が厚いほどきつからである。不思議に思う人もいるだろう。「厚い方が応力が分散されて良いのではないか」と。そういう面も確かにあるが、容器壁が薄いと、容器壁が熱変形することによって応力を逃してくれ、一般にこの効果の方が強いのである。だからモロゾフの容器が割れたのは、ガラスの質が低いせいもあるだろうが、それでももっと薄く作れば割れない可能性はある。似たような話で、最近プラスチック製の湯たんぽが出回っているが、湯が容器口を溢水すると面倒だし前日のぬるま湯を使えば幾ばくとも加熱する熱量の節約になるので、私は同じ水を毎晩繰り返し使っており、湯が容器の八分目程度になるように湯の量を決めている。これは湯たんぽ内の水位が毎回同じと言うことであり、毎晩湯たんぽの同じ位置に繰り返し熱応力が掛かることになる。案の定、その水位付近で割れ目が貫通してその湯たんぽは使用不能になった。そして割れ目が貫通したのは壁の薄い部分でなく、むしろ壁の厚い部分であった。古典力学は意外と正直なものだと、私は感心した。

2003年12月10日 19時26分37秒

計算工学学会

学生の頃、「今度学会があるから出席して発表する」と友人に言ったら、創価学会の熱心な会員と勘違いされたという、素直に笑えないエピソードがある私だが、何年か前に仕事上のつきあいで「計算工学学会」の設立を手伝ったことがある。その時の設立の趣旨に曰く、「今や数値解析は理論、実験

と並ぶ研究開発の第3の柱として認知されるに至った・・・」。これを読んで、当時もうこの分野に醒めた目で居た私は不思議に思ったね。「理論、実験と並ぶ第3の柱として認知」されているのならなぜ「理論工学学会」とか「実験工学学会」とか言う学会がないのだろう。かような学会が不要なほどに工学が細分化しているのは工学屋にとっては常識だ。この常識に立てばことさらに「計算工学学会」などと銘打った学会が設立されるそのこと自体が「数値解析がまだ第3の解析法として認知されきっていない」ことの何よりの証ではないか。つまり計算工学学会は矛盾の落とし子なのであり、この学会が発展的に解散するときこそ数値解析が一人前に認知されたときなのである。設立も終わり腐れ縁も切れて、私はこの学会を退会して清々したが、風の便りだとまだ存在しているらしい。それもいずこも同じ「学尊民卑」で。

2003年12月09日 19時25分42秒

ドトールコーヒー

ドトールコーヒーはコーヒーを軸としたファストフードのフランチャイズチェーンである。だからこの系列の売りはまずコーヒーと言うことになるのだが、私は正直言ってこのコーヒーが好きではなかった。個性を出そうとする余り変に奇をてらっているというか、私にはそういう味だった。でも1年か2年前に味が変わった気がする。まともにうまくなった。加えてバーガーの方もメニューに改良が見られた。今私が好きなのは「サーモンの薫製のベーグルセット」である。中身は名の通りなのだが、ベーグルというのは元来ユダヤ人の種の少ない（従って堅めの）パンであり、最近健康食として非ユダヤ人にも見直されているものである。これと薫製の塩っぽさが微妙に良くあう。お勧めである。ちなみに「ドトール」とはポルトガル語で「ドクター」の意味で、創業者がブラジルにおいて過ごしコーヒーに開眼したときの通りの名から取ったそうである。

2003年12月08日 19時25分12秒

ペロブスカイト

ペロブスカイト構造という結晶構造がある。元は酸化チタンカルシウムからなる鉱石の呼称であったが今は広く、2種の金属（そのうち1つは遷移金属）を含む酸化物で、金属が相互にかみ合った立方晶系を形成し、その間に酸素が正八面体構造で入る晶系を取る物質の一般称呼となっている。加えてこの晶系はしばしば微妙にひずんでいるが、ひずんでいる場合も含んで呼ばれる。このペロブスカイト構造が一躍有名になったのは、高温超伝導体の多くがこの構造を取っていたためである。そのためペロブスカイトと言えば超伝導体を想起する人が多いが、実はこの晶系、超伝導のみならず半導体、太陽電池、圧電素子等様々な機能を発現し、最近では巨大磁気共鳴効果も見つかっている。そしてかように多才な割にラボ実験規模で結構容易に製造できる。今もっとも熱い素材の一つである。なぜこのような多才な機能を有するかについては必ずしも解明されていないが、結晶の微妙なひずみが何かの役割を果たしているようだ。

2003 年 12 月 07 日 19 時 23 分 57 秒

緑内障と白内障

目の代表的な病気に緑内障と白内障がある。これらはいずれも進行性の病で、進行を遅らせることは出来るが、一度進行したものを元に戻すのは困難である。白内障は本来透明であるべき水晶体内の眼液に、細胞のくずのような不純物が混入し、これら不純物が眼球に入った光を乱反射することにより光が受光細胞まで届かなくなる症状で、たれでも加齢とともに少しずつ進行するが、進行が早い場合はこれを遅らせる目薬を差す。一方緑内障は、何らかの原因で眼球の眼圧が高まり、これが眼球周りの受光細胞を押しつぶして機能不全にする機械的な病である。眼球の眼圧が高まる原因の主なものは眼液注入管と排出管の内排出管が詰まるもので、通例レーザー治療を行う。緑内障も一度つぶされた受光素子は機能を回復できないため、進行を予防的にくい止めることが重要である。

2003 年 12 月 06 日 19 時 23 分 01 秒

反面広告

日本ではほとんど見かけないが米国では比較広告は当然、反面広告すらある。そして特に選挙の際に加熱する。私が米国にいたときに上院議員選挙があり、当時の州知事がその職を辞して立候補した。そして対立候補の間で激しい選挙戦が続き、選挙戦も終盤と言う時に新聞ぶち抜きで反面広告が載った。その広告には前州知事の写真が暗いイメージで中央におかれ、大きい字で「この人は州知事時代に教育費の補助法案に数十回以上もNoを言った」と書かれていた。米国にはこのような広告が中傷でも何でもなく許されるのだ。肖像権も問題にならないらしい。米国人の友人にこの反面宣伝について感想を聞いたところ、「相当のボディーブローだ。これで形勢は逆転した」とのこと。その感想を聞いてもう一つ驚いたのは、教育費関連がそれほどにダメージのネタになることだ。日本だったら文部省と言えば三流官庁の代名詞なのに、米国では教育にかくも一般の関心が高いとは。そして選挙。案の定その元州知事は落選した。しかし落選してもその反面広告について提訴するようなことはしなかった。あの訴訟社会アメリカである。この一件には驚くことが多かった。

2003年12月05日 19時21分28秒

パケット送信方式

インターネットの普及には目を見張るものがあり、この10年で生活のあらゆる場面を劇的に変化させた。中でもIP電話は、送信するデータを文字データから音声データに置き換えただけなのだが、見る見る普及している。IP電話が普及する原動力はその安さ（従来の電話に比べ数分の一）であるが、同じデータを送信していながらなぜにかくも価格が違うのであろうか。それはデータの送信方式が違うからである。従来の電話は回線を一本借り切りその上で会話していたが、IP電話の場合は音声データを細切れのパケット（小荷物）にしてそれに送り先を記したヘッダーをつけて、回線を占有することなく次々に送り出している方式である。貸し切りであるのと無いのとでは価格が数段に違うのは自明の理である。では、このパケット送信方式だが、インターネットが発展しなければどうしても開発されえなかった技術かと言われれば、決してそのようなことはない。ただ単にだれも思いつかなかっただ

けである。この小さな発想の転換で、電話業はいわゆる「ラストワンマイル」を除いて小資本でも出来るようになり、NTTなど従来の大きな電話会社の資産はほとんどが負の資産になってしまった。これら大手電力会社は今余剰人員と不要設備を抱えた不良会社に転落し、YAHOOのような身の軽い新興勢力と不利な戦いを迫られている。ノーベル賞級の発見でなくても、ちょっとした発想の発想の転換で世の中を変えることが出来る恒例である。思うにこれは歴史上のほんの序の口で、これからはちょっとした発想の転換で、電力、水道、ガス、電機といった大規模設備産業が恐竜化していく前触れではないか。

2003年12月04日 19時27分03秒

子宮内膜症

女性には生理痛の方が多い。男性には分からない苦しみである。この原因で最近特に目立っているのが子宮内膜症(Endometriosis)である。実は内家の家内もこれで苦しんだ。これがなぜ増えたかについて明確にはなっていないものの、食生活の変化、生活レベルの向上、統計の徹底などが言われている。この病気は子宮が胎内物質を過剰に製造し、その過剰分を子宮外に押しだし、この物質が粘着質であるため、体内の諸器官(特に卵巣や腸)を本来でない位置でくっつけてしまうために生ずる痛み並びに臓器不全である。最近ではホルモンを調整する良い薬も出てきたようだが、それにしても対症療法であって根本治療でない。専門医に行っても「早く子供を産んで子宮を切除しましょう」とか「子供を産むことによって直る人も居ます」とか言われるだけである。結果的に独身女性に多い。命にどうこうする病気ではないものの、女性の生産効率を落とす困った病気である。最近の研究の進展により、何らかの遺伝子が関与していること、及び、アレルギー的症狀であることが明らかになりつつある。

2003年12月03日 19時25分40秒

地球温暖化計

ある人が、「簡易地球温暖化計」を開発したので特許か実用新案権を取りたいと相談にやってきた。その装置の原理とはこうである。まず風船を2個用意し、一方には空気を、他方には二酸化炭素を入れる。その上でこの二つの風船をそれぞれ同じ表面積の太陽電池に接続する。すると2つの風船に注入される熱量は同じなので、一定時間後に気体の温度を測定したところ、二酸化炭素の方が高かった。これは即ち二酸化炭素による地球温暖化の証拠であるという。地球温暖化、太陽電池、いずれも今話題のテーマである。これらを組み合わせ、しかも簡単に温暖化が分かるので、発明あるいは考案として新規制及び進歩性があるという。持ち込み者の説明は以上であった。希望はなるだけ叶えてやりたいのだが、残念なことにこの人は自然法則を誤解して捉えている。二酸化炭素が地球温暖化の原因とされるのは、二酸化炭素我より多くの熱を吸収するからではなく、二酸化炭素が赤外線を透過しないために、さもなくば地球外に赤外線として逃げる熱を反射しあるいは閉じこめて地球に返してしまうからなのである。そしてこの人の風船の温度測定で二酸化炭素の方の温度が高かったとすればそれは単に、二酸化炭素の方が空気よりも比熱が小さいために暖まり易いだけの話なのである。というわけで、この人の「発明」は、仮に進歩性及び進歩性があるとしても「産業利用性」が無いとして特許法第29条柱書き違反で拒絶される運命にある。この点を詳しく説明して丁重にお引き取り願った。それにしても町の発明家は色々考えるものだ。

2003 年 12 月 02 日 19 時 25 分 14 秒

俵万智

「サラダ記念日」が大ヒットしたときはまぐれ当たりの一発屋だと思った。一発屋だって一発も当たらないより遙かにまし。卒業して高校教師になった時、「浮かっている割には結構自分を知っている、意外に堅実」との感想を得た。数年で退職、詩人活動を継続した時は、「まあ人生一回きりだからできるところまでやってみたら、今更新鮮みはないけど」と遠い目で見ていた。やがて国の国語審議会の委員などになる。「やっぱりおきまりの出世コースか、格好は付けてみても所詮は猪口邦子コースかよ。」と心の中でさようならをした。「ら抜き言葉大いに結構」などと「過激な」発言をしていたことは知っていたが、それだってせいぜい古くなった温室ミカンみたいな権威の爺さ

んにとってはこけおどしになる程度としか印象に残らなかった。彼女は私の中でもう終わっていた。ところがである、御年40歳にてご出産、シングルマザーになり、かつ相手の男性の名はあかさない。しかもシングルマザーは彼女の持論であったという。流行の一環としてシングルマザー擁護論を唱える人はいるが、まさか実践するとはね。しかもここ最近では自分の世界を広げるためにバーのママをやっていたという。普通の人なら眉をひそめる水商売である。正直言って見直した。俵真智って口先人間じゃなかったんだ。調子よく権威筋を泳ぎ回り自分に箔をつけていく凡人的出世魚ではなかったのだ。シングルマザーになったことで国の委員など危ないかも知れないが、そんなことはへとも思っていなかったのだ。この人、意外と大成するかも知れないな。例えば樋口一葉とか与謝野晶子に匹敵するような。急に注目株になってきた。今後の活躍に期待したい。

2003年12月01日 20時03分11秒

人柱

イラクでついに日本人外交官が殺害された。イラク民族派は従来から、「米英連合軍に味方する者はすべて敵と見なす」と言っていたが、それを実践し始めた形である。今回の外交官の殺害は位置づけ的には警告、いわば序の口で、イラク派兵があれば戦闘員・文民を問わず攻撃を仕掛けてくるであろうし、日本で自爆テロを仕掛けてくるかも知れない。しかし現内閣はイラク派兵を止めようとしない。そりゃあそうだろう。小泉が中曽根を引退させるときの口約束に「イラク派兵と憲法9条改正は絶対やる」と約束し、あるいはもっとうまく、「ここで中曽根さんが静かにしてくれた方が9条改正はすんなり行くんですよ」とたしなめたであろうことは想像に難くない。後は世論形成だ。そして世論形成にもっとも近道なのはイラクで人柱が立つことだ。日本人が目先の感情で意志決定することは拉致問題を例にとっても明らかだ。と言うわけで右翼改憲組が今心から願っていること、それはイラクでの人柱である。

2003年11月30日 20時02分57秒

テツ&トモ

漫才コンビのテツ&トモの紅白出場が決まった。正直言って驚いたね。彼らがかねてから「紅白出場が目標」と言っていたのは知っていたけど、あくまでも冗談の内と思っていた。それに「なんでだろー」が流行ったことは知っているけど、あれって歌かい？どちらかというと漫才のセリフとアクションにちょっとメロディーを振ってただけだろう。仮に百歩譲ってこの点は許すとしても、紅白を狙うには売り出しのタイミングが最悪だったね。今年の紅白が終わった直後の今年始めだろう。この世代代わりが早い時代に冬までもつけないよな。紅白と言っても良くて応援団としての出演、通常のペースならとくに息切れして「あの人は今？」状態になっていると思っていた。そこで考えたのだが、テツ&トモが紅白に出ることができたのは、1月前にコンビを組んだ「サップ&アケボノ」コンビのおかげではないかと思う。つまり裏番組に民放がサップvs曙という強烈なバラエティーをぶつけてきたため、最近視聴料低迷気味の紅白としては同じくらいヘンテコで個性の強い異色のコンビで対抗する必要があったと思うのだ。だから、初出場でこれがおそらく最後の出場となるテツ&トモさん、出場は実力で勝ち取ったなどと単純に思わず、「サップ&アケボノ」コンビに十分感謝しろよ。

2003年11月29日 20時01分46秒

マインドコントロール

一時ほどではなくなったが依然として高視聴率を誇っているNHKの看板番組に「プロジェクトX」がある。高度成長期に、与えられた場所で頑張って、無名ながらも成果を上げた、いわば下積みの人たちの奮闘記である。この番組がなぜ高視聴率を取っているのかは、視聴している世代や経歴を分析してみないと分からないが、おそらく世の大多数を占める「無名の自称がんばりや」たちの共感を呼ぶからであろう。私は正直に言ってこの番組が、今まで見た中でもっとも嫌いな番組の一つである。どのくらい嫌いと言って反吐が出るほどである。企画者の意図は日本反映の石づえを築いた立派だが無名の人々を賞賛するということであろうが、私たち若年層には、「お前たちもこの人たちみたいに、与えられた場所で馬車馬のように働け」と、真綿で絞めるようにマインドコントロールしているからである。要するに押しつけが

ましい。そして私のこの番組に対する嫌悪感は、会社が社費でこの番組のDVDを購入し、このDVDに限り就業中に視聴可としたことで絶頂に達した。これじゃあまるで戦時下における大本営発表下の国民たちではないか。こんな田舎芝居にだまされるか。それにしても一般に、この手の真綿で絞めるマインドコントロールが実は一番効果があるのである。この番組のマインドコントロールに比べたら、かつての経済企画庁長官で、カリスマ性の全くない堺屋太一の「足踏みを続けながらもそろそろ遠くに日差しが見えてきた状態」と言ったたぐいの経済報告の方が、本人は企業家相手にマインドコントロールを狙ったつもりであろうが、よっぽど子供じみている。

2003年11月28日 20時00分26秒

遠ざかる神

神が人を作ったとき、神は御手自らこれを行った。エデンの時代、神は人とともにあった。アブラハムの時代、神は時に姿をあらわししばしば直接語りかけた。師士の時代、神は師士に直接指導をしたが一般大衆に姿を見せることはなかった。予言者の時代、神は予言者にすら姿を見せず言葉で語る形となった。唯一モーゼには姿をあらわしたが直接見ることは許されなかった。更に下ってイエスの時代、父なる神は大衆に姿どころか言葉もかけなかった。パウロの時代、彼は「第三の天に昇った」と自称しているがその前後で思想の変化が全く見られないことから嘘臭い。そして原子キリスト教と教父の時代、もはや神など考えるのもおこがましく、彼らは人間パウロを神格化するのに躍起になった。そしてカトリックから新教への以降の時代、教会は神秘的雰囲気すら消えて、単なる良い子の生徒会に成り下がり、福音主義と称して聖書の文献解釈に駄した。かように見るようにキリスト教の歴史は神が遠ざかる歴史である。「我々は御利益宗教ではない」などと、髪が現れないことを却って肯定して居直ることにより、現代のキリスト教は成り立っている。もっともこの、神を祭り上げて遠ざけあるいは遠ざかり、挙げ句の果てにその代理人（パウロ、牧師、坊主、マホメッドなど）すらも崇め奉る傾向はどの宗教でも多かれ少なかれ見えることであるが。私の知っているあるアスリートの公式応援HPは、設立当初には本人が良くレスっていたが今はほとんどレスがない。でも「本人のレスを当てにしているようではまだ本物のファンではない」とうそぶく人たちによって未だにそれなりに盛況である。こうい

った人間の行動法則を見ると、紙は自ら遠ざかっているのではなく、むしろ人の思いが、もっと言えば猿の手が神を遠ざけているように思えてならない。我々が真剣に神に直接立ち返る努力をすれば神はきっと答えてくれると思う。もう、ねじけた教会で子供だましをやって自己すらも満足していないと言うあの壮大な無駄は終わりにしたい。

2003 年 11 月 27 日 19 時 11 分 02 秒

風水

中国の風水学では方角に色と動物が配されている。具体的には北が玄武、東が青龍、南が朱雀、西が白虎である。即ち北東南西の順に亀、龍、雀、虎であり、黒、青、赤、白である。中国の主要都市や中華街では街の四方にこの名を冠した門が建っている場合が多い。更にこの風水は四季にも対応する。青龍が春、朱雀が夏、白虎が秋、玄武が冬である。北原白秋の著名な筆名はここから取ったのであろう。加えてこの風水は人生の節目にも対応している。青龍が青年期、朱雀が働き盛り、白虎が壮年期、玄武が老年期である。かような広大かつ多様な観点を総合的に有する宇宙観・人生観は他に類を見ない。ここにも中国民族3千年の深い知恵・洞察が現れている。

2003 年 11 月 26 日 19 時 10 分 02 秒

項羽と劉邦

力拔山兮氣蓋世（力は山を抜き、気は世をおおう）、時不利兮騅不逝（時利あらず、騅（すい、自分の馬）行かず）、騅不逝兮可奈何（騅が行かない、いかんともできない）、虞兮虞兮奈若何（虞や虞や、なんじをいかんともできないのだ）。希代の英雄項羽の辞世の句である。天賦の武力を有し、秦の後継として圧倒的に有利だった楚の武将項羽は、この五言絶句の起の句にあるように氣力に満ち満ちていた。しかしある意味氣力に満ちすぎていたため全戦全勝で、次第に自分の実力を過信するようになり、民心が離れていき、下住みが長く人身掌握に巧みな劉邦の策略に敗れ去る。最後にして最大の策略「四面楚歌」で項羽は自らの最後を悟る。冒頭の句はその時の句で

ある。後世湖の句は、項羽が自分の敗北を「時」という他人のせいにして自らの敗北を認めなかった彼のよう慢さを反映しているとの解釈が有力であるが、私はそうは思わない。項羽はその最後を悟った際にも自身としては山をも抜く気概、世を覆う勢いに満ちていたと私は確信している。同時に時が自分から劉邦に移ったことも理解した。自分自身は内なるエネルギーに奮い立ちながらも、天というもっと大きなものがもう去ってしまっているのである。この相克を一体どう処理すればいいのだ。その悲しみを素直に歌った句であると私は読む。そしてこの句を詠んだとき、彼は結論は憤死以外にないと悟る。自らの天命を受け入れた崇高な句である。私はこの句の潔さが好きである。この垓下（がいか）の戦いに勝った劉邦は中国全土を統一して、順風満帆の内に歌った歌が残っている。自らを賛美する歌である。ここでは載せないが、凡庸きわまりない。私は劉邦のようになって長生きするよりも、項羽のように短くても氣力にみなぎった一生を送りたい。

2003年11月25日 19時08分59秒

I can retire

日本には定年制が一般的であるが、米国には定年制はない。差別撤廃運動の一環で「年齢による差別も止めよう」という動きになっているからだ。だから米国では原則として、定年を自分で決められる。家族構成、貯蓄状況、会社での立場等を考慮して自分で判断する。判断の結果定年をするときは、彼らは、“Now I can retire.”（やっと引退できるぞ）と言うそうだ。つまり定年とは現役で居られなくなり身分や地位もなくなる寂しい時ではなく、むしろ、これから毎日自由気ままに暮らせ趣味に生きられるうれしい瞬間なのだ。私は米国人ではないがこの気持ちがよく分かる。私も早く娘を仕上げて引退して趣味に生きたいものだ。

2003年11月24日 19時07分30秒

一声運動

大学時代に先輩から聞いた話である。その先輩の同級生に極めて頭の切れる同級生が居たそう。どちらかというと「間違いに紙一重」というタイプの天才だったそう。その2人が卒業研究で同じ教授につき、その天才は、「工場から事故を撲滅させるための工学的提案」をテーマに選んだ。そして卒研発表の日、その天才はただ一言「全員にヘルメットをかぶさせろ」と提案したそう。何の根拠も調査もなく。根拠薄弱を教授が指摘したところ、その天才は、「そんなこと常識で分かることだろう」とはねつけたそう。この2人の議論は最後まで平行線をたどり、天才さんは結局卒業証書を得られず、大学がばかばかしくなって去っていったそう。この話をしてくれた先輩は「研究は天才がやるものでなく、単に手順を追ってするもの」と割り切っており、そのまま大学に残って最近教授になった。その先輩曰く、「あいつは自分のことを『将来学長になって日本を救う』と言っていたけど、今ごろどこで学長をやっているのかなあ」と笑っていた。嫌みもいいところである。私はどっちもどっちと思った。要領よく立ち回って教授になった先輩、馬鹿でもできる「一声運動」みたいなものに拘る天才、結構名の知れた大学での話だが、私は個人的にはこの2人のどちらにも賛同できない。

2003年11月23日 19時06分33秒

日本沈没その後

SF作家の小松左京氏の大ヒット作の「日本沈没」がヒットしたのはもう1世代前にもなろうか。SFには常に「本当らしい嘘」が伴う。本当だけだと学問の枠を越えられないのが、本当を「ちょっとずらす」だけで意外性に富んだ大スペクタクルを表現できるのがSF文学の醍醐味である。そして「日本沈没」における「ちょっとずらす」は、太平洋プレートと北アジアプレートの衝突面が日本海溝付近ではなくもっと内陸の日本列島直下にあるとしたことである。これはプレート理論のシミュレーションの初期条件として仮定しても面白いような高度に科学性をもった「ずらし」である。この仮定により、両プレートの衝突に起因したカタストロフで日本列島は沈没し、生き残った日本人は1割にも満たなかった。実は小松左京氏によるとこの小説には「続編」が予定されていた。「日本沈没」を科学的スペクタクルとするならば、続編は「社会学的スペクタクル」とでも言うものである。つまり生き残った日本人が中国大陆にたどり着き、聖書の「出エジプト記」よろしく、生き残りを賭けた民族の大移動

を行うという構想だったそうである。定住民族である日本人を生き残りを賭けた放浪、あるいは他民族との衝突、あるいは有力なリーダーシップ（モーゼのような）といった、従来の定住民族の日本人には無かった試練や社会構造が構築されつつ、結末としてはいつか栄光の地に至るという筋であるとのことであった。しかしこの構想は未だ結実していない。大変面白いSFテーマだと思うのだが、結実せずに終わりそうな気配である。とすれば残念なことだ。せめて「世界遺産」としてあらすじだけでも著作物に残してもらえたらと思う。ある時インタビューで小松氏が「1割も生き残しちゃったからなあ」と言っておられた。確かに10万人くらいなら集団放浪もできそうだが1千万人はね。でもトリックをもう1つかませて員数を減らせば済むことだと思う。この放浪物語が興味深く感じられるもう一つの理由に、歴史的には証明されていないが、「ユダヤの失われた10部族＝日本人」論の存在がある。つまりユダヤの失われた10部族は放浪の上日本に定住したというのである。天皇の象徴の「3種の神器」は古代ユダヤに原型があるとか、伊勢神宮の名称は「イスラエル」から来たとか、祝詞や民謡のかけ声にはヘブライ語で理解できるものがあると言った「状況証拠」も言われている。この説がロマンのレベル以上になることはないと思うが、小松氏の予定稿たる続編SFにはこれに負けないロマンがある。

2003年11月21日 18時34分55秒

日記7

聖戦

イスラム教には「聖戦」という概念がある。かような概念が形成されたのは、端的に言えば、イスラム教初期に周囲の抑圧（土着宗教、キリスト教、ユダヤ人等）と戦わざるを得なかった環境にあったからだが、結果的には、この概念はイスラム教があそこまで広がる原因の一つになった。聖戦のことをアラブ語で「ジハード」と言う。一般にアラビア語、ヘブライ語を主とするセム語

（他にアッカド語、アラム語等）は子音3文字を基本形して、これが膠着語的格変化及び時制変化をする仕組みになっているが、「ジハード」の語根は”j-h-d”である。これはアラビア語で「努力をする」と言った意味の動詞である。これから派生した名詞が「ジハード」、つまり「努力＝聖戦」である。そしてセム語において「～した者」なる語を作るときは語頭に”m”をつける。こうしてできた語が”mejahid”、つまり「努力する者＝聖戦参加者」となり、この語の複数形が「殉教者」を表す「ムジャヘディン」である。アラビア語では語尾に”n”をつけて複数形とする（ちなみにヘブライ語では”M”である）。このような成り立ちの語にアフガンの一大勢力であった「タリバン」がある。この語は「タリブ」（＝神学生）を複数形にしたアラビア語である。一般に派生語形成はどの言語においても多分に規則的であり、もちろん例外はあるが、それはそうした方が発音しやすいという、言語本来の用途に即した場合が多い。

2003年12月30日 19時36分40秒

西高東低

そろそろ本格的な冬入りをして、天気図も西高東低の典型的な冬型の気圧配置を示すようになってきた。ここで西高東低とは、端的に言うと大陸側の気圧が高く、東北から北海道沖の太平洋側の気圧が低くなる気圧配置である。この気圧配置は、海に比べて大地の方が気温の影響を受けやすいため、冬は海氷面が相対的に暖かく、大陸が相対的に寒くなるため、大陸付近の空気は冷やされて下降し、逆に海氷面付近の空気は暖められて上昇するために起こるものである。しかも海氷面からの空気はそもそも湿度が高い上に、空気は低気圧側に引っ張られる方向で、しかも北半球ではコリオリ力によって右回りに回転するように入ってくるため、ちょうど日本海上空を横断する北西風が吹くようになり、これが日本海流から湿気をたっぷり吸って日本列島の日本海側に当たり、続いて山脈を駆け登るために、日本海側一体に大雪を降らすことになる。九州北部には降雪があっても東海地方には降雪がないのも、この北西風の吹き方が原因である。

2003年12月29日 19時36分28秒

おれおれ詐欺

おれおれ詐欺とは老人対象にその息子や孫になりすまし、会わずに電話で「おれだけど今大変なんだ、お金を振り込んで」などとせがむ新手の詐欺である。この程度ならある意味まだ笑っていられるが、最近は更に手が込んできて、「お前の孫を誘拐した、ついては金を振り込め」などと手が込んで悪質化している。そして先日、ついに死者が出た。かような電話を受けた老婦人が心配の余り興奮し、動脈瘤破裂で死亡したという。新聞によると警察が詐欺未遂容疑で捜査を開始したという。警察が動いたと言うことは将来において刑法で立件するつもりであると思われるが、ここで問題が2点ある。まず、刑法は民法と異なり、特別な場合を除いて、遂行しかつ結果が発生しなければ、準備や未遂の段階で留まったり実行したものの目的に到達しなかった場合は可罰とならず立件できないことである。この点については、詐欺未遂と言う罪も一応あるが、おそらくいずれ、未必の殺人容疑に切り替えるつもりであろう。次に脅迫電話を持って直ちにその婦人の殺人に結びつくかという点について、相当の因果関係の立証が必要なことである。これには専門家（例えば法医学者）の鑑定証言がいずれなされるであろう。この犯人はどんな個人的事情があったのか知らないが、ほんの出来心が思わぬ方向に発展してしまった。

2003年12月28日 19時35分29秒

花の応援団

私より少し上の世代ならば誰もが熟読したであろう、ドークマンという筆名の漫画家が描いたベストセラーである「花の応援団」。正直言ってストーリーは型破りにむちゃくちゃで、かつお下劣で、しかもそのお下劣にふさわしい漫画タッチであった。ストーリーは応援団員である青田赤道が団員、先輩、女性たちと繰り広げる破廉恥物語で、その破廉恥さはいわば「ハレンチ学園」の大人版と言ったところか。例えば便所のマンホールのふたで焼き肉パーティーをしたり、看護婦と見るとすぐ下着に手を入れたりと言ったことが綿々と続いていく。「役者やのう」とか「チョウンワチョンワ」とか、言葉もずいぶん流行った。聞いたところによるとうちの嫁様が大学に入った頃、まだこの漫画とゴルゴ13シリーズは寮に全巻揃っていて回し読みしていたという。

2003年12月27日 19時32分39秒

次はお前だ金正日

ならず者独裁者であるイラクのサダム・フセインがついに拘束された。実は10年前の父さんブッシュが大統領の時の湾岸戦争でもブッシュをかなり追いつめ、米国は殺害する予定であったが、ロシアの強硬な反対により断念した経緯がある。こうしてみると米国は世界の警察の役割を自ら買って出ているようにも見えるが、実は米国は伝統的にモンロー主義（内政不干涉）の国であって、海外の治安そのものには興味はない。そもそも米国政府には国防省はあるがあくまでも国防目的である。それがなぜ先にはアフガンに干涉し、今度はイラクに兵を進めたか。それはこれらの「ならず者国家」がテロ輸出国であり、石油産出国であるため、自国の国益に直結するからに過ぎない。そもそもイラクはフセインのおかげで富裕な国になったと言うが、フセインイラクを富裕にしたのは米国自身である。当時隣国イランの政情が極めて不安定であったため、米国は隣国イラクに大量の武器及び経済援助をすることにより、これに対抗したのだった。基本的に国益重視の論理的帰結である。またルーマニアが独裁者チャウシェスクによって国民が貧困の極みにあったときにも、米国はこれを熟知しながら何もしなかった。ルーマニアを通してのソ連・東欧情報の獲得に重点を置いたためであり、チャウシェスクを見殺しにしたのはソ連崩壊以後である。ここにも国益優先の態度が見える。さて、2正面作戦をするほど愚かでない米国がイラクについて形を付けた後、次に目障りなのは北朝鮮であろう。共産主義国家であり、国際的ルールを無視したならず者国家であり、しかも決定的に許せないことに実質核保有国である。核を保有したのは基本的に金王朝安泰のための切り札のつもりであったろうが、結果的にはこれが米国をして「目こぼしをできない国」にしてしまった。補佐的理由としては同盟国である勧告及び日本への脅威という点もある。今直ちに核を全面放棄しない限り、米国は北朝鮮を黙って見過ごさないであろう。次はお前だ、金正日。

2003年12月26日 19時31分45秒

無効電力

無効電力とは、一言で言えば、交流回路を複素数表示したときの電流または電圧の虚数部分である。虚数部分であるから通常の電流及び電圧においては表に出てこない（つまり有効に使われていない）。しかしながら積により電力を求めたり、ノルムとしてインピーダンス（抵抗の逆数）を求めるときはその成分になる。従って、平たく言えば無効電力とは、電力は食うが電流や電圧として直接利用できないものであり、名前の由来もここにある。家電等の設計に当たっては表向きの効率を良くするために、できるだけ無効電力を小さくした設計を目指すのが、電力系統においては、無効電力が小さいと言うことは、交流すなわち複素数が不安定と言うことになるため、一定量の無効電力をあえて補償する設計とする必要がある。電力消費量が異常にのびたために無効電力分を急遽有効成分に回さざるを得なくなり、その結果無効電力が減って電力系統への擾乱を有効に回避できなかったのが、15年ほど前に起こった「東京大停電」である。

2003年12月25日 19時30分46秒

マンション経営

突然知らない会社の営業担当と称する人から電話が掛かってきて、「あなたもワンルームマンションの経営をしませんか。確実な収入源になりますし節税対策としても有効ですよ」などと切り出す。皆さんのところにもしばしばこういう電話が掛かってくるだろう。迷惑至極だが、相手の土俵に載せられてしまふとなかなか電話を切ってくれない。そして万一一度でも会おうものなら、少なくとも幾ばくのおみやげなしでは縁を切ってもらえないという。私のかつての上司は、「あなたのこのような電話がひいては日本の生産力を低下させる」と何時間にも渡って説教したそうだが、こういう「正攻法」も今ひとつ芸がない。私の断り方はこうである。向こうはたいてい、「今の日本の税金って高いですよ、少しでも節約をしたいですよ」などと同情を装って自分の土俵に乗せることから始める。ここで、「いいえ、税金ちっとも高くないですよ。税金もつと払いたいですよ。国が栄えて結構じゃないですか。私はお金全然欲しくありません」と答えるのだ。十中八九これで向こうはあきらめて

（あるいは馬鹿にされているのかと頭に来て）、向こうの方から電話を切っていく。この間1分足らずである。

2003年12月24日 19時29分54秒

サダム

サダムと言えば最近生け捕りにされたサダム・フセイン元イラク大統領であるが、今日は彼の意義、経緯、今後、影響など高度な議論をしようというわけではない。何のことはない、うちの娘の通っている学校の先生のあだ名だ。全員にあだ名が付いている。ただしその多くは苗字や名前をもじったもので、人物を知らない第三者が聞いても別に面白くない。面白いのはそれ以外だ。まず教頭は「サダム」。顔が日本人離れしていてフセインがかなり入っているからだ。「4分の1アラブ人」というまことしやかな噂も流れている。次に隣のクラスの担任が「キムさん」。女性だが、顔が横に広い丸顔で、目と口が小さく、しかもあれ風のヘアスタイルをしていて、金正日に似ているという。この前本物を見たが、確かに似ていた。続いて理科の教師が「蠅女」。まだ20台の女性だが、いい加減で理科室は散らかし放題、その上不潔で顔も貧相。これも本物を見て納得した。最後に音楽の教師が「ごつつあん」。超デブで関取のようだから。これも本物を見たが言い得て妙であった。そしてこれらのあだ名を付けたのは特に優秀な生徒ではなく、むしろ良く赤点をもらうレベルの生徒たちだという。つまり成績は良くなく、いわゆる頭の悪い生徒でも、人の特徴を端的に捉えるのには天才的な才能を発揮するのだ。これだから人の才能は分からない。

2003年12月23日 19時29分41秒

飯屋のオヤジ

私が学生の頃、近所に良く行った中華料理店があった。平凡な町の中華屋なのだが味が良い。それにオヤジもただ注文に応じて仕事をするのではなくしばしば考え事をしたり独り言をつぶやいたりしている。当時純情な私は、究極の中華を求めて研鑽を続ける熱心な店主なのかと思った。そしてある

時「熱心ですね」と声をかけた。そのオヤジは無愛想に「ああ」と言った。さらに私は「だからここはおいしいんですね」というと、そのオヤジはほめられたのにちっとも喜んでいる風もなく、「ああ、そうかい」と投げやりに言う。私はそのオヤジが熱心に見入っている紙切れをのぞき込んだ。するとそこには「日刊勝ち馬」という大きな見出しが踊っていた。要するにこのオヤジが熱心な対象は料理の研究でなく競馬の予想だったのだ。私はそのオヤジに「何で料理人になったんですか」と素朴な疑問をぶつけてみた。するとそのオヤジは「何を今更」とでも言わんばかりに、「競馬に賭ける金を作るためさ」と答えた。愚かな私は、「じゃあ料理には興味はないんですか？」と聞くと即座に一言、「ないよ」と返ってきた。このオヤジはただ馬が駆け込む一瞬のために生きているのであって、仕事は必要悪に過ぎないのだ、と分かった。正直驚きだった。あれから20年、今の私はあのときの中華のオヤジと何ら変わるところがない。ただ日々の食い扶持のために「時間・賃金変換器」たる会社に行き、そして帰る。人生とは所詮そのようなものだろう。私があのとき心の中で軽蔑したその中華屋のオヤジは、実は私の人生の師だったのかも知れない、そう思う今日この頃である。

2003年12月22日 19時28分57秒

選好曲線

経済学は大きく分けてミクロ経済学とマクロ経済学がある。ミクロ経済学は消費者一人一人の消費行動を追究する学問で、基本的には需要供給曲線（右下がり）と選好曲線（右上がり）の交点をもってその個人の購入値・購入量とするものである。この際の微分係数に当たるのが限界代替率で、両曲線の交点での接線の傾きの関係により安定選好な場合と不安定選好な場合がある。更に、交点付近の選好曲線の非線形性に注目して様々な非線形数学が研究されている。一方マクロ経済学は一国あるいは少なくとも一自治体単位での経済動向を研究する学問で、物価、国民総生産、通貨供給量、輸出入、公定歩合といった財政、金融政策と深い関係を持っている。目下のところ経済学ではミクロとマクロの間にほとんど関係がない。この点についてマクロはミクロを積み重ねた統計的所産でなければならないとする還元主義立場から最近注目されている手法に「マルチエージェント理論」がある。これはここのオートマトンに単純な行動様式（通常非線形）を与え、それ

らを相互作用させることにより全体としての規則性を抽出しようと言う手法である。この手法は従来の解析的研究手法と相性が良いため、最近では経済学のみならず社会学や地政学等いろいろな分野に応用され始めている。これまでのところマクロがミクロの積み重ねであるという暗黙の仮定に異議を挟む意見は聞いたことがないが、私は懐疑的である。物体の性質に過ぎない物理学においては良いとしても、人間の心理行動を含む経済学等が基本的にリベラリズムの申し子であるモナードに分解可能なのであろうか。分解可能であるとしなければ「学問」として発達しないのは分かるが、分解主義が理工学のみならず社会経済学にも浸透し始めたことに、むしろ一抹の不安を感じる。なお、実学の立場からはミクロの需要供給曲線や選好曲線一本を引くのすら大変な困難が伴うことを付記しておきたい。

2003年12月21日 19時27分01秒

うんちく

うんちくとは一言で言えば「一群の無駄知識」である。第一条件としてまとまって知っていること、第二条件として役に立たない（金にならない）ことである。うんちくは、それを披露する人にとってはこの上ない快感であるが、聞く方にとっては、特にその話題に興味がない場合は、小うるさいだけで迷惑千万である。そしてたいてい興味がかみ合わないので、「うんちく」は迷惑、謝絶の代名詞である。私もうんちくを披露するのは好きな方で、民族舞踏・音楽、言語学、中近東問題等に関してはいっぱしの見解を持っているつもりだが、家族の誰も聞いてくれない。そういう私も、例えば何年もののこのワインが味がどうでその理由は気候や土地柄がどうだとか、どのスポーツ選手のプロ入り前の成績がどのくらいでどうやってスカウトされその後うなったかなど、興味のないことをうだぐだ聞かされてももう勘弁という感じだ。考えてみればこの日記シリーズもうんちくの断片みたいなものだから、人によって日毎に興味のある話題と無い話題が繰り返されていることだろう。まあ、日記だから、独り言に近いと言うことでご勘弁願いたい。というか、普段だれも聞いてくれないうんちくを、ここで披露して気持ちの発散をしていることだと言うことだろう。もし誰か共感した話題があったなら、掲示板に遠慮なく書いてください。

2003年12月20日 19時25分55秒

小樽と余市

小樽は札幌から1時間弱ほどの海に面した都市である。かつてはニシン漁で栄え、日銀支店を始め多くの主要経済機関も集まる経済的都市であった。気候的には日本海に面して寒さが厳しく、風も強く、決して過ごし易いところではない。かの石原裕次郎が青年期を過ごしたことで知られるが、良くかような気候の厳しいところで過ごしたものだと思う。かつてのニシン漁の面影を残す「ニシン御殿」も残るが、ここでお大尽で暮らすのと、季候の良い館山当たりで小作人をしているのと、どちらが幸せか分からないほどである。そしてこの小樽の西に位置する都市が余市である。余市から函館本線は内陸にはいる。余市は沖を暖流が流れるため、また、吹きさらしの地形でないため、かなり季候が良く、北海道でも有数の果物の産地である。ニッカウイスキーの本拠地があるところであるが、「ニッカ」の商号の言われは「日本果実酒」であり、お酒の産地となるほど果物に恵まれている。かようにこの2都市は隣通しであるものの気候はかくも異なる。これが日本という海に囲まれた島国の、気候の難しいところ、面白いところである。

2003年12月19日 19時25分06秒

リー群

リー群とは「連続群」とも言うが、代数、解析、幾何という数学の3大要素がすべて関わった数学的対象であるため、多くの数学者の興味を集めてきた。ここで代数的要素とは群という代数構造（演算）が入っていることであり、幾何とは、多様体として把握されるという面であり、解析とは収束を議論できるということである。そしてこれだけ縛ればある意味必然であるが、係数を少なくとも \mathbb{C} 数（普通の数）及び \mathbb{Q} 数（べき零、あるいは、非アーベリアン）とした場合については「分類定理」が確立されている。数学において有限個（種）に分類できるということは重要な結果である。そしてこのリー群は、数理物理学において素粒子を記述する道具として必要不可欠であることが認識されることにより、物理学においても極めて重要な概念となった。「群論ペスト」なる病気が猛威を振るったと表現されている。今では数学としてはほ

ば解明し尽くされ、物理学としてはこれで大統一理論を表現するには器が狭すぎると認識され、流行は去ったと言えるが、依然として重要な基礎分野である。ではなぜ器が小さすぎるのであろうか。私が思うにそれはもっぱら群論という代数構造の要請にある。群は演算として閉じていなければならない。言い換えれば閉じさえすればそれ以上の具体的構造には一切関知しない。その結果、リー群を幾何としてみた場合、その形状は極めて複雑かつ特殊なものしか許容しない。「幾何」とは言ったが、学校で習うユークリッド幾何のような見方ではとてもイメージできず、ホモトピー群、ホモロジー群といったトポロジーの用語の適用により、理解できたような気になるだけである。言い換えれば現実問題で群論で解決できるような問題はほとんどない。先に「リー群はほぼ完成している」と言ったが、現代数学はリー群の方向を止めたのではなく、むしろこの方向を更に突き進んでいる。その結果現実とは益々乖離する方向にある。もちろん将来のある時点で理論物理学に応用できることが全くないとは断言できないが、とある高名な応用数理学者は、「この手の純粋数学は前世紀にその使命を終えた」とさえ断言している。

2003 年 12 月 18 日 19 時 24 分 10 秒

自由からの逃走

ユダヤ系心理学者 E.フロムによる世界的名作で、ナチズム最盛期にアンチテーゼとして著された、歴史に残る名作である。「人々は自由を熱心に希求しながらも、ひとたびこれを獲得すると却って不安になり、自由を放棄して隷属状態を求めるようになる」と説く。この本を読んで衝撃を受けた知識人は多い。私はと言うと、衝撃を受ける以前に理解ができなかった。自由を求める点においては人後に落ちない私にとって、自由を却って手放したがる心理というものは、全く私の理解の範囲外であった。この意味が分かり始めたのは、せいぜいここ数年と言って良い。しかも体験として分かったわけではなく、様々な人々の行動様式を観察することによって、あるいはそういう場面（人）もいるかも知れないと、観念的にローカルルールとして帰納してきた程度である。最近の若者の右翼回帰、天皇礼賛も広い意味でこれに当たるのかも知れない。天皇という「大樹」の下に位置することによって、精神的安定を得るのであろうと。自由から逃走しようとする意識の更に根元を探ろうとすれば、これはおそらく意識下の問題となって、当面は解明不能であろう。同

じくユダヤ系の思想家で今までの常識を根底から覆した人に、やはりユダヤ系の G.フロイトが居るが、私にとっては彼の思想の方がまだ分かりやすかった。

2003 年 12 月 17 日 19 時 23 分 17 秒

金ラメ

先日所用で休暇を取ったので、昼食を家内と一緒に話題のラーメンチェーン「揚州商人」で頂いた。関東圏に30店ほどの店舗展開をしているラーメンチェーンで、味は広州風、つまり極めてあっさり系である。ちょうど昼時だったので、行列ができるほどの盛況ぶりであったが、その味も噂に劣らない良いものであった。しょうゆまたは塩をベースとした、なめらかでかつ隠し味をうまく絡めたスープに、細目の麺が良く合っている。「本場中国の味」がうたい文句であったが、その通り期待を裏切らない味であった。ところで私は出勤日は社員食堂で食事をしている。さすがに揚州商人ほどの味ではないが、何と言っても安い。そして安い割にはうまい。特に金曜日はみそラーメンの日だが、下手な町のラーメン屋よりもよっぽど良い味だ。だから金曜日は会社へ行くのが楽しみだし、金曜日はほかのメニューが何であろうともみそラーメンと決まっている。おかげで「金ラメ」というあだ名まで付いてしまった。揚州商人も捨てがたいが、仕事先での昼食に高い金を出したくない。拘束の代わりに得た賃金が目減りするのには悔しくてたまらない。それよりは仮に味は今一でも、私は社員食堂派である。

2003 年 12 月 16 日 19 時 22 分 20 秒

黒川温泉問題

黒川温泉の「アイレエディース宮殿黒川温泉ホテル」が元ハンセン病患者の宿泊を拒否した問題で、同温泉組合はこのホテルを除名処分にした上で謝罪した。除名処分と謝罪、誰でも思いつく最も常識的な対応である。だが私はこの対応に疑問が残る。組合に本当に謝罪の気持ちがあるのなら、組合傘下の旅館が手分けして全国の元ハンセン病患者を招待するくらいの積極

的行動があっても良いのではないか。だが、実際はなかった。組合傘下の旅館も実は、「うちが隕石に当たらなくて良かった」と胸をなで下ろしているのではないか、そう疑いたくなるような木で鼻をくったような「処分」である。もちろん「アイスター宮殿」の対応を養護するつもりはないし、世間の関心ももっぱらこのホテルとその親会社である化粧品会社に集中しているようだが、もっと組合に目を向けても良いと思う。

2003年12月15日 19時22分04秒

まいうー

今年の流行語大賞が「なんでだろー」ほか2件に決まったばかりのところ
でちょっと気が早いけど、来年の流行語大賞は「まいうー」なんかだろう。
この言葉は芸能界得意の「ひっくり返し言葉」であって、それ自体は芸もない
のだが、自称デブの”debu”の石塚英彦とパパイヤ鈴木あのハンバー
グが人間になったようなデブたちが満面の笑顔でこれを言うと正直笑える。
そろそろ番組から一人立ちして勝手に流行る境地に入り始めている。小学
校生のうちの娘も使い始めたし、クラスでも特においしいときに使う言葉とし
て結構流行っているという。パパイヤの方は昔から「おじさんダンスのリーダ
ー」としてあの独特のひげとアフロで結構知られていたが、石塚の方は見れ
ば「ああ、あいつか」と思い出しても、知らない人が多いのではないか。ダン
ディー坂野の「ゲッツ」も捨てがたいが、この自然に出る「まいうー」にはちょ
っと人工的すぎて及ばないように思われる。私の推測が当たるかどうかは
あと1年弱待ってもらいたい。

2003年12月14日 19時01分53秒

雑学と学問

雑学と実学はどこで線引きされるのであろうか？私には未だに分からない。
雑学の典型と言えば、例えば「トリビアの泉」。ここの売りは「意外な無駄知
識」であるから、自他共に認める雑学で、この番組で披露される知識を全部
知っている人が居たとしても、その人はあくまでも「雑学者」であって、尊敬さ

れないどころか、場合によっては軽蔑の対象にすらなる。絶学と学問の境界線としてしばしば「ひとかたまりの論理構造を有する有機的知見」があげられるが、例えば江戸学、この「学問」の中に論理構造があるのであろうか？ほとんど断片的知識の集まりではないのか。一方「何でも鑑定団」の鑑定士を勤める骨董屋のオヤジ。この人の知識も雑ぱくと言う意味では雑学であろうが、視聴者を驚嘆させるほどの博学である。それなのにどうして江戸学をやる者は教授で鑑定屋は骨董屋のオヤジなのであろうか？別に教授だから偉いとは思わないけれど、教授と言うからには教える何かがあるのであろう。では骨董屋のオヤジには習うべき大したものもないのであろうか？私はそうは思わない。そうでなくとも学問の周辺領域が広まっている現在、学問と雑学の境界は限りなく曖昧になってきている。いずれ消滅するのではないか。そうしてみると、「学問の府」という呼び名で守られてきた大学の権威が、昔は良かったのかも知れないが現代にはそぐわなくなっていると言うことだ。知識の価値、これは良い。だが知識の価値はもはや大学の独占物ではなくなっている。独立行政法人かをきっかけに、「単なる社会の一機関」に徹するべきである。

2003年12月13日 19時00分42秒

水道方式

水道方式とは算数の教授法の一つで、「水道の水のように自ら引き出るように次々と理解が進む」ように企図された教育方式で、今から40年ほど前に、当時高名な数学者であった遠山啓氏が開発した教育方式である。うちの娘が通っている小学校でもこの方式になる教科書を採用している。で、この教科書を一見して、本当に「水道のようにするすると」理解できるか否かは確認できなかったが、私は「極めて不自然」との感想を得た。一言で言えば、教える対象である、人間に関する洞察が全くずれているのである。むしろ人工知能やパソコンのような機械に教授するかのような論理展開を取っていて、人間の直感の存在を全く無視している。だから当たり前のことをわざわざ難しく遠回りに書いている一方、福井謙一先生が「直感を養えて一番大切」と主張した幾何学にはほとんど触れていない。これは水道方式の欠陥と言うよりも、当時数学界を席卷していた、「構造主義ペスト」の影響が大だからであろう。つまり遠山理論は、現代的視点からは、水道方式の是非

は二次的な問題であって（私はこれにも賛成しかねるが）、構造主義数学特有の不治の病に罹っていることこそ問題なのである。構造主義とは、「数学は公理系を与え、それに基づいて演繹論理のみにより導かれた構造だけが意味があり、その構造が具体的に何を意味するかは全く関わらない」とする主義である。従って公理系の与え方次第でそれぞれ別の数学ができるが、それらはそれぞれ正しいのであって、「どっちの数学が世の中の役に立つか」といった質問は意味を成さないのである。この構造主義の金字塔が、フランスのブルバキ数学集団による「数学原論」であるが、あれから半世紀経った今、構造主義を手放しで受け入れる者は数学者であってもほとんど居ない。構造主義は無神論と底辺でつながっており、構造主義が数学をして「公理系という勝手な組み合わせの上に咲くあだ花」という極端に押しやり、ついには自滅寸前にまで至らしめたのである。というわけで、うちでは娘に算数を、教科書とは離れて別途教えている。そうせざるを得ないほど水道方式は迷惑千万な過去の遺物である。

2003 年 12 月 12 日 18 時 59 分 30 秒

バスタイレン

バスタイレンとはある種の化学物質に誰かが冗談でつけた呼称である。ベンゼンが sp^2 軌道に係る二重結合の共鳴によって安定化するのとは良く知られているが、ベンゼン環（いわゆる「亀の子」）が2つになるとナフタレン、3つになるとアントラセンと、こう増えていって、四方に無限に広がった「化学物質」を、当時合成されていたわけではなかったが、もし合成できればその分子骨格が風呂場のタイルのようだという事で名付けたのであろう。いかにも冗談である。で、このバスタイレンは最近実質合成された。1つはフラレーンのような籠状分子として、もう一つはナノチューブとしてである。これらはいずれもメゾスケールで閉じてはいるものの実質的にバスタイレンの実現と言って良い。しかし私は、近い将来に本物のバスタイレンが合成されるものと予測している。なぜならば sp^2 軌道は平面上の時に一番安定だからである。現状のフラレーンやナノチューブが閉じているのは、閉じた方が、多少曲がってもダングリングボンド（不飽和な結合の手）の不安定性にうち勝つからだと推測するが、不飽和ボンドの不安定エネルギーにうち勝つほどに膜が広くなれば膜の合成も可能と考える。膜になれば、実質1次元のナノチ

ューブや粒のフラーレンとはまた異なった物性や用途が広がるであろう。ちょうど白川膜のように。物性的には量子化学的効果（超伝導、半導体など）がマクロで発現するようになり、用途としては単層膜なので大変効率の良い究極の薄膜となろう。一時「炭素の研究は終わった」と言われていたが、私にはもう一弾みあるような気がする。

2003年12月11日 18時59分19秒

サバティカル

サバティカルとは7年に1回やってくる「義務無し年」で、伝統的に大学教師のみに認められる特権である。サバティカルの年は授業を担当する義務を免除され、有給のまま何をしようと自由の身になる。かつての大学教授がぬきんでて優秀だった頃はこの習慣も分からなかったが、今のようには大学は基本的に「知のお遊び」をするところで、個別具体的な技術についてはむしろ民間の方が数段勝っている時代においては、時代錯誤も良いところである。ここから仮定の話になるが、もし私が今サバティカルを取ることができればその1年を米国を放浪して歩きたい。まずサンフランシスコに上陸し、ロサンゼルス、アイダホ、ソルトレーク、デンバー、シンシナチ、シカゴ、ジャクソン、ニューヨーク、ワシントンと2月くらいずつ住みながら横断旅行をしたい。そもそも定住と束縛が嫌いな人間だし、各地の境界を巡り歩くことが出来るとなれば家内も喜んで賛成してくれるだろう。実際には勤め人は搾取されるだけでサバティカルなどあろうはずもないのだが、一方で、100年前に比べてこれだけ生活レベルが向上した今でも人々が必死で働かなければならないとは一体どういうことだろうと、しばしば疑問に思う。素朴な疑問である。

2003年12月10日 18時57分43秒

泳ぎ

私が泳げるようになったのは30歳を過ぎてからである。学生の頃は運動はからきしだめだったが、中でも水泳はドッジボールと並んで大の苦手で、実質見学状態であった。ある時など、プールの中にいるのさえ嫌で、わざとお

しっこをしてつまみ出されて清々外れたこともあった。そんな私が泳ぎを習いたいと思うに至ったのは、米国滞在の際旅行をするとモーテルにはたいていプールがついていて、これを利用しないのはとんでもない権利放棄だと悟ったからであった。私は近くのスーパーで練習をした。別に先生についたわけではなく、独習である。私は幼稚園のころから何でも独習で、先生から習ったことはない。カエルを想起し、流体力学的に体の動きと水の抵抗を考慮しつつ手足を動かしている内に一週間もすると曲がりなりに平泳ぎができるようになり、2週間目には息継ぎも成功し、3週間後にはクロールもマスターしていた。やる気になればできるものだ。米国滞在中には旅行の度に楽しんでいた。帰国後ハワイに出張したときなど、半日近くも泳いでいた。今では「得意のスポーツは？」と聞かれると「水泳」と答えることにしている。もっとも家族に言わせると「へっぴり腰でみっともない」そうであるが。

2003年12月9日 18時57分03秒

シズラー

米国にいたときにずいぶんとお世話になったバイキング（英語では”all-you-can-eat”と言う）のシズラーが数年前から日本でも関東を中心に店舗展開をしている。シズラーは、ハンバーグやグリル料理も悪くないのだが、目玉は何と言ってもバイキングである。日本は某レストラン会社が商標の使用許諾を受けて展開しているらしいが、驚いたのは内容が全く同じにも関わらず、値段がかなりお高めである。米国では5ドル（600円程度）で2食分たっぷり食べられたのだが、日本では最低でも2500円くらいは取られる。ネクタイまでは要求しないものの、決して庶民の安飯屋ではないのだ。まあ、何事もお高い日本ではあるが、材料はありふれた野菜等であることを考えると、ほとんどぼろ儲けと言える。でも好きなのは私たちのみではないらしく、「行列のできるレストラン」になっている。お金がないときに行くところではなく、むしろ何かお祝いのために行くところなのだ。もう少し安くなってくれないかなあ。びっくり寿司さんなんか1500円もあればたっぷり食べられるよ。

2003年12月8日 18時56分10秒

自慢始め

私は仕事柄大学の先生方とのつきあいが多いが、ここ数年彼らの年賀状がなぜかこそって「自慢調」になっている。曰く、〇〇学会の理事に選ばれました、曰く、〇〇賞を取りました、曰く、論文が著名な学術誌に掲載されました等々。実はこれらはまだかわいい方で、「息子がT大学に現役合格しました」、「娘が医学部に進学しました」、更には「孫が慶応幼稚舎に入学しました」などと言うのまでである。先生方は成果を競うのが仕事であるし、温室育ちの独特な常識があるので、彼ら相互には何ともないのであろうが、一回の会社員に過ぎず自慢の幾ばくもない（仮にあっても守秘義務で口外できない）私にとっては、「もうこの手のはいい加減にしてくれないかな」と閉口すること甚だしい。いっそうのこと「今年も会社の業績芳しからず、ボーナスが減りました」などと嫌みで返そうかとも思うが、きっと通じないだろうから、月並みの「謹賀新年」で無難に返している。

2003 年 12 月 7 日 18 時 55 分 04 秒

親替え

親の愛は山よりも高く海よりも深い。確かにそういう場合が多いであろう。だが常にそうであるわけではない。最近親（特に若い親）による子供の虐待が目立つが、そして虐待ほど明確ならば法的措置も執れようが、そこまで行かない「精神的苦痛」あるいは「親の名を着た強制・搾取」は表面化しないものの少なくないと思われる。私も学生の頃、学校で出される試験問題が本屋の手違いで市販されているのを見つけてきた母親に、「こっそりこれで予習をしていけ」と命じられ、「信義に反する」と反対したところ殴られたことがあったが、これは100もあつた出来事のほんの一例で、親に搾取された覚えすらあれ、世話になったとか、愛情を感じたとか、背中を見て育ったなどという記憶は全くない。かような微妙なケースについては法的措置も難しい。そこで日本でも子供に「親替え」の権利を認めることを提案する。この制度があれば私は間違いなく行使したであろう。そしてこの権利を子供に行使されたことによって勝手に恥をかい世間様に顔向けできなくなるあの親たちの狼狽ぶりを想像するだけで愉快的気分になる。

2003 年 12 月 6 日 18 時 54 分 07 秒

日記8

隠れアルトマン

アルトマンとかツバイとか聞いたことがあると思う。結婚相手の仲介サービス業で、自分の経歴及び相手についての要望を記載して本部に送ると、折り返し条件に近い相手のプロフィールを送ってくる。そして条件が合いそうだったらお見合いし、見事ゴールインしたら相当の仲介料を納入するシステムを業とした仲介業者である。こういう物を誰が利用するのかと思っていたら、数年前に、一流企業に入った大学時代の同級生から突然連絡があり、「近々結婚することになったが、ついては結婚式に出席して、仲を取り持った友人の役割を演じて欲しい」という。友人の話はこうだった。「アルトマンで相手を見つけたが、そんなことがばれたくないので、結婚式では私を通じて知り合ったして欲しい」と言うのである。その友人は、私がかつてその結婚相手の出た大学に知り合いが居る」と言っていたのを勘違いして私に頼んできたのだった。私が状況の違いを説明すると、その友人は了解して電話を切ったが、結婚式には呼んでもらえた。そこでは、私と別の人が「仲を取り持った友人」として紹介されていたが、その「友人」のスピーチもなければなれそめの解説もなかった。あるわけがない。何せアルトマンなのだから。それにしても私の友人も一流大での一流企業勤め、お相手の女性も母校の大学助手で将来を嘱望されているという。こういう人たちでもアルトマンを使うんだな。私は社会現象の一端をかいま見た気がした。そしてこの時以来、隠れアルトマンを見破るノウハウが身に付いた。「友達の紹介」とは言いながら、そんな重要な役柄を担った友人のスピーチがない場合は、まず隠れアルトマンと思って良い。

2004年01月20日 17時59分52秒

キノーヤタカー

私が米国にいた頃、同じ研究所にたちの悪い日本人が居て、その米国の研究員に、「日本語でおはようは何というのか」と聞かれて、「キノーヤタカー」（お前昨日の夜嫁さんとやったか）と嘘を教えていた。そしてこの人たちは毎朝、「キノーヤタカー」「ヤタゾー」などと挨拶していた。ところがある時この男の上司が研究所に立ち寄り、その米国人は得意げに、親しみを込めて、「キノーヤタカー」と挨拶してしまったのである。その男があわてふためいたことは言うまでもない。あわててその米国人を陰に連れていって、「その挨拶はカジュアルなので公式の場で言うてはいけない」などとへたくそな英語で言い訳をしてその場を取り繕っていたが、こういう善意の外人に嘘をつくこのふざけた野郎を私はまだ許していない。その後会っていないが日本に帰ってもろくな事をしていないだろう。

2004 年 01 月 19 日 17 時 58 分 47 秒

マロード

勤務先の近所の駅前に「マロード」と言う名前のしゃれた喫茶店がある。看板にもフランス語で“Café Maraude, Bienvenu!”と書いてある。正直言って笑える。なぜなら、「マロード」という店名はいかにもフランス語らしい良い響きで、響きのみからは喫茶店名にはふさわしいと思えるのだが、“maraude”とはフランス語では「盗賊」の意味である。「アリババと40人の盗賊」の盗賊である。店主がフランス語を知っていてつけたのか否かは知らないが、「喫茶・盗賊」とは知ってみればむしろブラックユーモアに近い。フランス語は一般に音の響きが良いので、響きだけでつけると恥ずかしいことになる。例えば“mon marie”（モンマリ）というと女性らしい響きだが、実は「うちの主人」（男性）の意味だったりする。

2004 年 01 月 18 日 17 時 57 分 57 秒

こんなの私の彼じゃない！

私が今の嫁様（と言っても何回も取り替えた訳ではないが）と結婚する前につきあっていた頃、嫁様は夢を見たそうだ。夢の中で私がいかにもガリ勉風に、牛乳瓶の底のような厚いレンズの眼鏡をかけ、ニキビ面で、学ランを着て、単語帳を開いてぶつぶつ言いながらやってきたそうだ。するとそこに嫁様の嫌いな、嫌みな友達が出てきて、「これがあんたの彼だよ」と言ったので、嫁様は思わず、「こんなの私の彼じゃない！」と叫んで、眼鏡を取り上げて靴底でぐりぐりに踏みつぶしたところで夢から覚めたそうだ。嫁様はこの一件で私のことがすっかり嫌いになって、結婚お断りの電話をしようとしたところ、ちょうど台風が来ていて、電話が不通になっており、果たせなかったそうだ。で、嫁様も落ち着いて考え直してやっぱり結婚した。私はこの台風を「神風」だと信じている。以後私たち二人は、知り合いから「割れ鍋に綴じ蓋だね」などと陰口を言われながら、干支一回り以上をやっている。

2004 年 01 月 17 日 17 時 56 分 49 秒

角の三等分

定規とコンパスを使って、直線の三等分はできるが角の三等分はできない。直線（線分）の三等分をするには、その線分の一方向の端点から任意の線分を引き、その延長上に同じ長さの線分をもう二本引き、三本目の線分の先と元の線分をつなぎ、後はこのつないだ線の平行線を引けばよい。ではなぜ角の三等分はできないのか。それは、「定規とコンパス」と言ったとき、一見作図に関することは何でもできそうであるが、実はできることは加減乗除と平方根のみである。そして線分の三等分は加減乗除のみで記述されるからこれができる。一方角の三等分は、三倍角の公式を実際に作ってみると分かるが、三乗根の作図が必要となる。よって定規とコンパスでは作図できないのである。

2004 年 01 月 16 日 19 時 00 分 31 秒

ツァラツストラ

ドイツの文豪ニーチェの作になる「ツアラツストラかく語りき」(Also sprach Zarathustra)のツアラツストラとは実はゾロアスターのことである。ゾロアスターと言えば分かる方も多いと思うが、古代ペルシャに栄えた宗教あるいはその実質的開祖の名である。このゾロアスター教は別名「拝火教」とも言い、火をすべてを浄化する物として崇めた。思想は完璧な善悪二元論で、世の中は善神アフラムツダと邪神アーリマンの終わり無き対決の姿であると説く。ここに出てくる「アフラムツダ」(光の神)から名を取ったのが、もう老境に行った者でないとご存じ無いかも知れないが、電球の商品名である「マツダランプ」の語源である。この宗教は後にイスラム教にその支配地をことごとく奪われ取って代わられたが、今でもインド西部に数万人の信者が残っているという。

2004年01月15日 18時59分11秒

侍

新聞で読んだ話だが、最近また京都の外人観光客が増加しており、通訳兼務の旅行案内業が繁盛しているという。そして中には資格を持たない、いわゆるもぐりまでおり、「日本にはまだ侍が居る」などと平気で間違いを解説して問題になっているという。しかし、ここで思うが、いくらもぐりであっても、「日本にはまだ侍が居る」などと本気で思っている人など居まい。むしろ受けを狙って、あるいは冗談で、またはサービス精神でそう言っているのではないか。そして、「本物を見せろ」と言われたら、太秦の撮影村にでも連れていけば良い。これは十分に「愛嬌のうち」というものである。逆に資格など持つてしまうと、資格剥奪をおそれてこの程度の冗談も言えなくなってしまうのか。日本も今後米国同様に益々資格社会となって行くであろうが、この程度のユーモアも許されないがんじがらめの世界は味気がないと思う。

2004年01月14日 18時58分15秒

ぶぶちゃんず

も一むす。の第4期メンバーの辻と加護がこの夏でも一むす。を卒業して別途ユニットを組むそうだ。2人ともまだ17歳、双子ほどよく似ているところは売りだが、果たして独立できるほどの人気&実力であろうか？まず知性と教養、これはどっちも驚くほど無いので、芸能界としては合格、次に体格と体力、これも合格だけど、正直言って二人ともウエイトコントロールが必要じゃない？も一むす。は元々、「つく好み」の個性的かわいい子の集まりだから決して美人ではないが、あの白痴美に寸胴の太さが加わると、もうほとんど立ちつくすのみの2匹のぶーちゃん路線まっしぐらやないか。そこでいっそうのこと、ユニットの名前はずばり、「ぶぶちゃんず」でどうだろうか？彼女らは一世代前の「リンリンランラン」を想起させるが、最近TVであの2人の「あの人は今」を見たら、もうれつな「ぶぶ」加減、もうブタを通り越してウシとかトドになっていたぜ。

2004 年 01 月 13 日 18 時 50 分 55 秒

神戸屋

神戸屋は大阪に本店を持つパンの製造販売を主たる業務とする会社で、その販売店とレストランはほぼ全国に展開している。自分の家の近くでは新横浜の易ビルに1店舗入っている（他に環八沿いにも店がある）。うちの家内はこのパンが大好きだ。わざわざ買いに行く。確かにひと味違う。家内はこのレストランでお茶を飲むのが大好きだ。せっかくの出来上がりのパンをまだ暖かいうちに、お茶など飲みながらゆっくり食べたいと言うことらしい。ところが私はこのレストランに入りたくない。なぜかという立地上仕方ないのだが、出張帰りのサラリーマンが新幹線に乗るまでの時間つぶしに、まだ仕事上の陰い目でうろうろ居て、彼らが否応なく目に入り、私は会社や仕事を想起してしまってとても休めるどころではないからだ。まだ向かいのマクドナルドの方が、客に女子高生など多く、よっぽど休める。家内は専業主婦なので、かようなプレッシャーは感じないらしい。二人の間で一時もめたが、結局「神戸屋は購入のみ」で折れてもらった。さもないと私は発狂していたら。会社と言うところは仕事が多いときはもちろん、少ないときもなぜか休めない。食うためとは言え、私には必要悪以外の何物でもない。

2004 年 01 月 12 日 18 時 42 分 54 秒

代数学の基本定理

最も著名な数学者ガウスの業績の一つに、「代数学の基本定理」の発見と証明がある。そもそも虚数（従って複素数）の概念を導入したのがガウスだが、「複素数を係数とする代数方程式（ \sin や \log の入らない正多項式のみからなる方程式）は、その複素数の範囲で解を持つ」ことがその内容である。例えば有理係数の二次方程式を解くと解に無理数が入ってくる。この意味で有理数は代数方程式を通すことによって有理数では収まりきれずに、無理数まで「拡大」される。この「拡大」が複素数については無い、と言うのである。数学的センスのある人は「面白い」と感ずるだろう。もっとも数学の証明は完璧に演繹主義だから、種のない結果は出てこない。単に心理的意外性を刺激するのみである。種をあかすと、概略次のようになる。正則（収束）を考えると、実数方程式ならば解は線で示されるから、右からの極限と左からの極限が一致すれば正則（解析可能）である。ところが複素数の場合は複素平面のあらゆる方向からの極限が一致することが必要であるから、正則の制限が厳しくなり、実部と虚部が一定の関係式（コーシー・リーマンの関係式と言う）を満たす必要がある。そしてこの関係式は実は「調和関数」（ラプラシアン＝0）と同値である。そこで任意の複素代数方程式についてその右辺の絶対値を取ると、絶対値であるから非負になるが、解があると言うことはある点でこの絶対値が零になることと同値である。ここで背理法を使う。零になる点がないとすると絶対値は正の最小値を持つ。この最小値の周りに微少な円を描く。調和関数ではかような場合円上の値の平均値が中心の値になると言う著しい性質を有する。この事と、円の中心が最小値であることは矛盾する。一口で言えば複素正則は調和的でなければならないと言う厳しい縛りが実数と複素数で様相を異にしているのだ。種をあかしてみればどうと言うこともないが、一見意外そうなことを見つけて「証明」（種明かし）するのが数学者の仕事の一から十である。

2004 年 01 月 11 日 18 時 41 分 11 秒

ケインズと田中康夫

ケインズの経済学は、ごく大ざっぱに言えば、経済活動を市場の見えざる神の手に任せるのではなく、積極的に政府が予算の重点配分をすることにより市場に介入し、それにより経済の方向を能動的に決めていこうという経済学である。そしてケインズが具体的な予算のつぎ込み先に挙げた分野は、公共土木分野であった。理由はこの分野が最も多くの分野を総合的に巻き込み得るからである。1929年の世界恐慌が、米国のルーズベルト大統領の決断により、ケインズ経済学を採用して、ニューディール政策として結実し、大きな成果を上げ、ケインズ経済学の効用は実証された。皮肉にも自由経済の国米国においてであったが。この成功は、戦後の日本でも、何かというと土木事業に税金をつぎ込む悪弊の少なくとも精神的隠れ蓑になっている。ところがバブル期以降このメカニズムが働かなくなった。バブルの崩壊に対し大蔵省・日銀は公共投資を大きな柱として経済の活性化を狙ったが、何の効果も奏さなかった。もはや「ケインズは死んだ」のである。で、ケインズが死んでその代わりに何が指導原理になったかという、何もない。現代は経済学において指導原理不在の混迷の時代である。私はここで、長野県知事になった田中康夫の手法に注目する。彼は、直接の目的は経済活性化ではないであろうが、それまで土木事業に回していた予算を福祉分野や老人介護、環境等に重点配分しようと言うものである。考えてみればケインズ理論の本質は政府の積極介入による経済へのカンフル剤注入であって、注入先は公共土木に限る必要はない。カンフル剤として注入の効果が広く行き渡ればよいのである。そしてケインズやルーズベルトの時代と異なり、これら福祉・環境分野がその総合的特質により、適切な注入先となる可能性も高いと、私は踏んでいる。この意味から私は向後数年間の田中県政の「経済効果」に注目している。

2004 年 01 月 10 日 18 時 40 分 59 秒

カンジニアリング

工学に係る報告書を読むとたまに、「工学的判断により」とか「工学的考察により」というタームが出てくることがある。これらタームの意味は実は、「根拠となる理論やデータがありませんので、工学屋の勘と経験で判断しました」という意味なのである。「これで一体学問かい」といぶかることも多いだろうが、工学とは所詮職人芸の物作り、一皮むけば勘と経験の世界なのであ

る。それに仮に理論があってもたいていは初等関数、行ってフーリエ解析程度しか用いられていないし、理論化できるところだけ理論化して残りは安全係数をかけてごまかすのは日常茶飯事である。工学屋たる者、理屈が無くても物は作らなければならないのだ。この「工学的判断」を日常語では「エイヤーで」と表現する。そして工学屋同士これで理解し合えるのだ。自嘲的に、「エンジニアリング」をもじって、「カンジニアリング」とも言う。こんなセンスで原子炉やロケットを作っていると言えれば空恐ろしくなる人もいるだろう。でも、滅多に壊れないから良いじゃないか。

2004 年 01 月 09 日 18 時 39 分 04 秒

ゲーデル・エッシャー・バッハ

10年以上前に標記の本がずいぶんと流行った。本の内容は標記の全く異分野の3人を出して、その「共通点」とも言うべき「自己引証」の不思議さを素人相手に説いてみたことである。ちょうどウンベルト・エーコの「バラの名前」が流行ったのと同じ頃だから、こちらを文学的神秘主義とするならば、標記の本は「科学的神秘主義」とも位置づけられようか。依然として熱狂的な「信者」が居るそうである。この、物理学が本業のホーホシュタッターになる本は、題名に引用された3名が全く異分野の著名人であるため、著者の博学さが評価されているのであろうが、私に言わせればこの本はほとんどペテンである。第一にこれら3名における神秘とは、ゲーデルにおいては自己代入による矛盾の証明、エッシャーにおいては単なる自然法則の無視、バッハにおいてはフーガという繰り返し技法であって、著者はあたかも同根のように書いているが、明らかに別物である。加えてと言うか当然にと言うか、異質なものを同根に見せかけているから、問題提起をして居るのみであって何らの回答や解決策も提案していない。それ故に、あえてこの3人を混ぜ合わせたことは、私にとってはペテンであると同時にスノブでもある。自己引証の矛盾、及びこれを逆手に取ったゲーデルの不完全性定理の証明は昔から知られたことで、依然としてパラドックスの部分はあるものの、この本はそのことをあえて回り道して言っているだけである。「クレタ人のパラドックス」については早く解決して欲しいが。

2004 年 01 月 08 日 18 時 39 分 15 秒

違憲立法審査

昨年当たりから日本の防衛意識もずいぶんと変わってきたものだ。自衛隊の海外派遣。これにどんな理屈を付けようとも、実質軍隊の海外派兵に変わらない。しかもこれに反対する表だった行動もなく、与党のやるがままだ。野党の老舗の社会党（あえて古い名前で呼ばせてもらう）はもとより、共産党でさえ最高裁判所に、いわゆるイラク法案についての違憲立法審査を請求する気配すらない。近代法制史における三権分立の考え方はモンテスキューに遡るが、基本的な思想は立法、行政、司法という政治の3要素の権威をあえて分離独立することにより独裁を防ぐ点にある。効率は多少悪いかも知れないが、これまでに人類が生み出した最も優れたシステムの一つと言える。三権分立において立法権、つまり法律を制定する権利は、立法府たる国会の専権事項とされているが（だから「議員立法」という表現がまかり通っている現状はおかしい）、これを野放しにせず牽制する手段として、違憲立法審査権が最高裁判所に与えられている。この制度が実際に機能した例として、昭和48年の刑法第200条（尊属殺人重課）の規定が憲法第14条（法の下での万人平等）違反として削除された例がある。かような動きは今回のイラク法案を巡っては全く見られない。政治的パフォーマンスにすらなっていないのだ。このままでは日本も行くところまで行きそうな気がする。

2004年01月07日 18時36分59秒

倫理研修

さて、最近では企業の倫理違反が世の中ですぐ取りざたされて、コーポレートアイデンティティー、ひいては会社の売り上げ、集金力、株価、格付けのすべてに影響するとあって、ご多分に漏れず当社でも「倫理研修」が盛んである。やり方はハーバードが得意な「ケースメソッド」で、ジレンマに陥るようなケースについて意見を出し合うというものだ。例えば「当社で製造したワインの1本に異物が混入していた。直ちに回収すると大損害になり自分の地位も危ない。担当部長は内々の抜き取り検査で済ませた。この対応について

「どう思うか」とか、「お客様から苦情があったので車で駆けつけたら駐車場が満杯だった。お客がかなり怒っているの仕方なく違法駐車したが、どう思うか」と言ったたぐいである。大切なのは回答よりも考えるプロセスであって、逆に論理付けが納得できるものならば結論は一つとは限らないと言う。この辺は「甲論あれば乙駁あり」と言われる法学に近いものがある。もっとも技術系の我が職場は、「正解が一つでない」というのが据わりが悪いらしく、どうしても自説を通そうという人が多かった。それに、すぐ「規則は過剰束縛だ」とか「事務系は細かいマニュアルで会社を縛って責任逃れをしている」と言ったたぐいの井の中の蛙的な重箱の隅論に終始しているのは、これも一種の職業病だと感じた。端的に言えば精神的かたわだと言ってるんだよ、自称技術者諸君。

2004 年 01 月 06 日 18 時 36 分 01 秒

おで一かんさま

「お代官様、これは些細な物でございますが」、「ふふふ、越後屋、お前もなかなかのワルやのう」、「いえいえ、お代官様ほどではございませぬ」。正月に時代劇のリバイバルを見ていたら、おなじみのこんなやりとりが出てきた。この場面は何度見ても笑える。怒りがこみ上げるのではなく、なぜか笑えてしまうのだ。きっと今でも手を買え品を買えてあるからだろう。「外務省様、ここがうわさのパンシャブにございます」、「おお、わるいのう、〇〇屋」、「いえいえ、外務省様のためならおやすいことで」てな調子である。「役人の子はにぎにぎをすぐ覚え」という落首もある。バリエーションに、「お代官様、これは信州の山奥で取れた山吹にござりまする」と言って菓子折の下に小判を忍ばせる方法もある。その一方で、「ひええええ、お代官様（おで一かんさま）、なにとぞお目こぼしを」というものもある。こう強欲でかつおそれられた代官とは天領（幕府直轄領）をお上に代わって預かる代理役人で、通常は旗本クラス（1万石以下）が指名された。一気に何十倍もの石高を預かるので、普段はぴーぴーしている分だけ強欲になろうというものである。典型的な役人根性である。もっと下っ端の役人には、酒屋などで役人の持っていた小銭をわざと落とし、「お役人様、これを落とされました」などと言って小判を渡すという手もあった。小判のありがたさについては、「これ小判、たった一晚居てくれろ」という落首がある。この御仁は岡場で当ててたまたま小判を

稼いだものの、借金だるまで1番拝むのが良いところであったのだろう。仕事始めだというのに、まだ正月気分が抜けていないようだ。

2004年01月05日 18時34分45秒

アーメン

今日は今年最初の日曜日、キリスト教的に言えば「第一主日」である。キリスト教では正月は説くに重要な意味を持たないので、第一主日と言っても特別な催しがあるわけではないが、兄弟姉妹の間には新年の挨拶が飛び交う。ちなみにカトリックでは主日のことを「サント・ドミンゴ」（スペイン語）と呼び、主日は「聖人扱い」である。今日は第一主日にちなんで「アーメン」について解説したい。アーメンとはヘブライ語（旧約聖書の言葉）で、「信じます」、「その通り」と言った意味である。語根は”-m-n”で、この形容詞である。「私は信じます」をヘブライ語で言うと、“Ani maamin.”となる。似たような言葉に「ハレルヤ」がある。これもヘブライ語で、「万歳」とか「成駒屋！」と言った感じで使うが、元は「主を褒め称えよ」という意味である。“Halelu yah”、ここで“halelu”は「讃える」という意味の動詞“h-l-l”の命令形、“yah”は「主」の意味の“Yahweh”の短縮形である。キリスト教的には異端である「エホバの証人」の「エホバ」は、“Yahweh”に間違った母音をつけたものである。今日で9連休も終わり、明日からまた日常が始まる。

2004年01月04日 19時43分53秒

100の質問

「〇〇に100の質問」というのがずいぶんと流行ったのはもう2年も前だ。私もトップページにいくつかの「100質」を掲載してあるが、私がこのホームページを始めたのは1年半前だから、私が100質を始めたのは流行が山を越えたあとということになる。それでも結構な人に使ってもらった。一番人気があったのは、「明日死ぬ人に50の質問」。確認できているだけで30人くらいになる。回答も各人各様でなかなか面白かった。若い人の回答が多く、もはや「どっきりカメラ」を知らないのには驚いた。次に使ってもらえたのが、「天

才に50の質問」と「宇宙人に50の質問」。それぞれ15人くらい。自分を天才だと思っている人が意外と多かったのは、むしろ予想通りだった。それらに続いて、「サラリーマンに100の質問」と「困ったときに50の質問」がそれぞれ10名弱。サラリーマンについては全員が「食べるために働いている」、「大して偉くならなくて良い」と答えており、現代の世相を反映していた。今でも私のページのアクセスの7割は100質が目的である。アクセス数にもずいぶん貢献してくれた。今年はどんな展開になるのか楽しみである。今日で三が日も終わる。

2004年01月03日 19時42分45秒

紹興酒再び

今年の正月は家族が祖父母のところに里帰りして、実は私は久しぶりに独身生活を謳歌している。稼ぎが少ないの会社でさえないのとかみがみ言われることもなく、結構なことである。まず、家族が居ると絶対に飲めない紹興酒を仕入れた。やっぱり中華ものは良くできているねえ。五臓六腑に染みわたるよ。日本酒も悪くないが、個人的には紹興酒に軍配を上げたい。そして紹興酒と言えば中華料理だ。私は常識大反対のひねくれ者だから、おきまりのおせちなどまっぴらだ。正月から中華料理を食べて何が悪い。「中華料理＋紹興酒＋正月TV」、これが私のお正月3点セット。満足満足。

2004年01月02日 19時41分27秒

RESOLUTION

子供の頃のクイズで、「明日は来月で来年です。明日はいつでしょう」というのがあった。正解は「正月」なのであるが、その正月が今年もやってきた。皇紀2664年の始まりである。また一つ馬齢を重ねることになる。新年と言えば「今年の決意」であるが、この決意のことを英語で”Resolution”と言う。「分解能」と同じ語である。「新年の決意」は”New Year’s Resolution”である。私の新年の決意は、今年こそ天命を知ること、キリスト教的に言えば「嗣業を知ること」である。この日記にも今まで半年、役にも立たないうちくを

並べ立ててきたが、天命さえ知ればこれらの知識も天命を中心にまとまって、決して無駄にならないはずである。神様、今年こそ私の嗣業を教えてください。

2004 年 01 月 01 日 19 時 41 分 33 秒

アニサキス

クリスマスの日に関東寿司に行ったらその日の真夜中に胃が痛くて飛び起きた。私は疲れが胃腸にくる方だが、今回の痛みはそういう鈍い痛みではなく、むしろ胃がきりきり痛む。たぶん生ビールで胃を冷やしたせいだと思い、家族に見つからないように、昔もらった痛み止めの薬を飲んだ。家族に知られないようにしたのは、知られると寿司屋に行けなくなったりビールを飲めなくなったりするからだ。こういうこそくな手段で当座は痛みが消えたが、数時間して薬の効果が終わるとまた痛くなる。この日はこれをくり返したが、次の日がちょうど産業医の回診日だったので、その医者に相談した。その医者の見立ては寿司の中に入っていた寄生虫のアニサキスではないかという。この寄生虫が胃の粘膜に食いつくので猛烈な痛みとなると言うのだ。療法としてはその寄生虫は2日もすると死ぬので、それまで痛み止めで我慢するのだという。特にサケやたこに多い寄生虫だそうである。案の定3日目にはほぼ痛みは消えた。しかも家族に知られないで。寿司を食うと言うことは基本的にアニサキスのリスクを覚悟すると言うことだそうである。そういえば米国人は物好きを除いて、生ものを食べるのをいやがる。野蛮だという感情もあるが、寄生虫に関する知識が行き届いており、理性が感情に勝るのである。こういうところはいかにも米国人らしい。と、今年はお粗末な話で年を終える。皆様も良いお年を。

2003 年 12 月 31 日 19 時 39 分 25 秒

日記9

宗教戦争

イスラエルとパレスチナ、セルビアとクロアチア、インドとパキスタンと宗教戦争が絶えない。これはある意味、日系米人のフランシス・フクヤマがその著書の「大国の終焉」で予言したとおりで、共産圏対自由権の闘争が超大国の消滅によってなくなった後はイデオロギーよりも宗教を根元とした小競り合いに世の中は移行している。だがこれは本当に「宗教戦争」なのであろうか。そうであるならば、人を救うはずの宗教が却って殺人をもたらしているであろうか。全てが相対主義である現在において、そういう面も皆無とは言えないが、実際は一皮むけば、これら小競り合いは「宗教戦争」ではなくて、「コミュニティ戦争」なのである。即ち異なったコミュニティが土地と言った有体不動産や、覇権という権益の拡大を狙って争っているものであり、多分にたまたま、それらコミュニティが宗教をきっかけとして形成されているに過ぎない。日本にいと余り実感がないが、私が米国に滞在していたときに、モルモン教からプロテスタントに改宗した家族が居た。その家族曰く、改宗に当たって一番つらかったことは、属するコミュニティを全く変えることだったそうである。その人たちは両隣もモルモンで、改宗前は親しく行き来していたのに、改宗後はすれ違っても挨拶一つしなくなったという。かように多くの国においては、宗教は民族とともに、コミュニティを切り分ける大きな要素なのである。つきあいがなくなるくらいならまだ良いが、憎しみとテロの応酬、しかも、宗教の隠れ蓑によって正当化されたそれは、互助の精神で早くに解決して欲しい。

2004年02月10日 19時16分57秒

救世軍

救世軍はクリスマスの社会鍋や、ホームレスを対象としたボランティア活動、地震等の被災者支援で知られた団体であるが、NPO（非営利任意団体）ではなく、れっきとしたキリスト教（プロテスタント）の一派（宗教法人）で

ある。その信条は、通常のキリスト教徒同じく、三位一体の神（父、子、聖霊）、一人称二人格（人であると同時に神）、及びキリストの十字架による罪のあがないと再臨・復活を信じるとともに、その隣人愛の気持ちを態度・行動で示すという意味の社会活動を重視した一派であり、「信仰と社会支援は車の両輪」と信仰告白をしている。今から約200年前、当時産業革命の余波で年に貧民があふれていたにもかかわらず、既成のキリスト教団が富裕層の社交場となっていたのに異議を唱えたブース夫婦によって創始され、次第に軍隊式の組織と規律を取り込むようになっていた。現在大將が世界に1人、司令官が原則として1国に1人（中將か大佐）おかれている。何代か前の大將は女性であった（エバ・バロウズ）。英語名は”Salvation Army”であるが、これに救世軍との訳を与えたのは貞明皇后（明治天皇の妻）である。軍隊組織が災いして日本の教勢は戦後に半減した。日本総司令部は神田の古書街の一角にあり、私はかつてこの近くのオフィスに勤めていたことがあったが、会社の同僚たちは、救世軍のことを誤解により「傷痕軍人」と呼んでいた。彼らが聞いたら苦笑することだろう。

2004年02月09日 19時15分04秒

失速（ストール）

先日甲府で小型飛行機が墜落して、若い女性操縦士が殉職された。原因はまだ調査中であるが、失速の可能性が高いという。失速とは飛行機が揚力を失って不安定になる現象であるが、急上昇や急旋回を試みた場合に起こることが多い。急上昇をすると、翼が上を向くため揚力の元になる投影面積が減る。加えて、気流に乗って飛行しているときは翼は気流を切り分けて（層流で）飛行するが、翼が気流に対して立ってくると、気流が慣性力により、翼の後ろで流線型に（翼型に沿って）流れることができず、翼の後ろに渦を巻く（乱流）状態になる。一般に渦は負圧であるため、翼を益々立てる方向（従って更に上向き）に引っ張るようになり、飛行機の体制は益々崩れる方向になる。こうして体勢を崩した飛行機はきりもみ状に落下することになる。失速は非行速度が遅くその分慣性力がない軽飛行機でより起こりやすい。ブルーインパルスのような曲芸飛行の場合は、失速の可能性に飛行の慣性力で打ち勝っている状態にある。

2004年02月08日 19時13分02秒

サイリスタ

半導体には電子が欠乏しているP型と電子が余剰なN型の2種類がある。これを接着したのがダイオード（ギリシャ語で「2つの道」の意味、「二極子」とも訳す）である。電子がNからPに流れるように回路を繋いだときのみ電流が流れるので、スイッチとして用いられる。ダイオードに更にもう一つ半導体を並列させ、真ん中の半導体に電圧をかけられるようにしたのがトランジスタである。真ん中の半導体（「ドレン」と言う）にかけた電圧により、回路を流れる電流が制御されるので、増幅器として用いられる。トランジスタに更にもう1つ（合計で交互に4つ）半導体を接続したのがサイリスタである。見方によってはダイオードが2つ向き合って接続されたものと見ることもでき、ゲート電圧を超えないと電流が流れず、いったん流れたとゲート電圧を落としても流れ続けるといった特異な非線形性特性を持つために、整流器などに用いられる。このようにして半導体の発見により、電子回路は急激に小型化、多機能化ができ、長足の進歩を遂げた。

2004年02月07日 19時13分19秒

ストックオプション

オプションとは約定に従って将来金券等を購入（販売）する権利のことである。オプションの権利を買っておいて、何らかの指標が約定値を超えたらその目的物を買う権利を行使できるのがコールオプション、約定値より下がったら売る権利を行使できるのがプットオプションである。権利であるから約定値に至らなかったときは権利を放棄すればよい。この時は権利購入に係る費用について損をするのみである。ストックオプションとはこの一形態で、株価を約定値としてその株を買う権利を代価と引き替えに得る一種のコールオプションであるが、通例は自社株の取引に係る場合に用いる。つまり、一生懸命仕事をして会社の株価が上がれば、その自社株についてより安い約定価格で購入でき、差額が購入者の利益になるので、会社によっては社員の激励策としても用いている。米国ではもう普及した制度である。日本でも外資系を中心に普及しつつあるが、ストックオプションについて現在問題に

なっていることは、これによる利益は所得か一時所得か、と言う点である。国税庁は所得と見なして課税したが、一部納税者は、ストックオプションは次の期では会社の業績次第でどうなるか分からない（権利放棄の場合購入価格だけ損をする）ことを理由に、「一時所得並の税率とすべきである」として国税庁を相手に行政訴訟を提起している。行政訴訟は三権分立及び国税庁が独立した外局であるため可能であるが、私はこの訴訟に勝ち目は薄いと見ている。

2004 年 02 月 06 日 19 時 11 分 19 秒

ボブの休日

本場の米国人も仰天するほどあれよあれよという間に日本のスターにのし上がったボブ・サップ、今後も日本でマルチタレントとして荒稼ぎするとともに、米国への逆上陸も狙っているそうだ。そんな多忙なボブもたまには休息が必要、と言うことである日、ハワイのビーチで寝転がって休んでいた。そこに日本人の女性ファンが1人、ボブを見つけてサインをおねだりする。実はこれは某TV局の企画で、カメラが陰に潜んで一部始終を収めている。女性、「ボブさん、サインをください」。ボブ（不機嫌そうに）、「ノー、いま仕事じゃない。いまぼくレスト。レスト、分かる？ 休み」。女性、「でもどうしても欲しいんです」。ボブ（しばらくしてカメラを見つけると）、「オー、イエース、オフ・コース。ぼくサインするね。さらさら。ほら、どうぞ」。（そしてカメラに向かって）「やあ、おともだち、ぼくはいつでも OK だよ。日本の人たちによろしく」。一般に米国人は仕事と個人の仕切がうるさいものだが、ボブの場合は商魂がこれを上回るらしい。でも、それでも憎めないボブであった。

2004 年 02 月 05 日 19 時 10 分 29 秒

常習累犯

同じ犯罪でも初回目と2回目以降では罰金や禁固等刑罰が重くなる。再犯をしたと言うことは反省がないと言うことであり、刑を重くするのは反省を促し刑事罰をより有効たらしめ、ひいては社会秩序を保護するためである。同

じ罪を何度も繰り返すことを常習累犯と言う。スリやのぞきのような小犯罪に多い。ところで私は正月3が日、所用で「おばあさんの原宿」という異名を取る巣鴨に行っていた。駅前には山手線の駅とは思えないほど昔風、庶民的で、生活必需品をそろえるのに新宿や池袋のような苦労は要らないし、家賃等もお手頃のようだ。この巣鴨がにぎわうのは、「とげぬきさん」があるからだ。が、個々で私が行かなかった1月4日に伝説の女スリがついに逮捕されたという。若い頃からスリー筋で、何度か逮捕歴があり、今までにムショ暮らしは通算で10年を数えるという。このようにスリのような軽犯罪でも、常習累犯の場合回を重ねるごとに刑期が長くなる。今度は5年は堅いという。現在70歳代と言うから、再び生きて娑婆を見られるか微妙なところである。

2004 年 02 月 04 日 19 時 09 分 35 秒

判で押したような

朝6時に起き、7時まで読書し、朝食を取って9時に会社に着き、社員食堂で昼食を取り、昼寝を挟んで午後の仕事をし、7時過ぎには家に帰って、8時まで読書をしてから、風呂に入って夕食にありつき、夜11時までには寝る。毎日判で押したようなこの繰り返し。私だけではあるまい。今時仕事があるだけでありがたい。食事満足に食べられない人が世界に何人もいる。確かにそうであろう。そういう人たちから見れば私の生活など天国だ。異論はない。でもつまらないのだ、この判で押したような生活が。つまらない主要因に、1日の大半を占める仕事、やっているのではなく、やらされているからだ。でもそれだってほとんどの人たちがそうであろう。幸せ故のつまらなさ、これはきっと、トーマス・モアの書いた「ユートピア」のつまらなさに似ているのかも知れない。ユートピア(=天国)は確かに退屈なところと実感する。私の「100の質問」でも、「死後は天国より地獄に行きたい」という人が圧倒的だった。理由も皆さん、「天国は退屈そうだから」である。みんな分かっているのだ。それなのにこの現状から抜け出せない悲しさ。こうして日記をつけることにもそろそろマンネリしてきた。

2004 年 02 月 03 日 19 時 08 分 31 秒

主成分分析

主成分分析は多変量解析の典型的手法である。例えば、母集団としてあるクラスの生徒の体重と身長が対であるとして、これらを平面上にプロットすると、まず、「背の高い人ほど重い」という一定の相関を持つであろう（一次相関）。ついでこの相関軸と垂直に、身長は同じでも体重は分布するという相関が見えるであろう（二次相関）。一次相関は標準体型の人の相似による大小を意味し、二次相関は太めからやせ形への変化を意味している。これらの相関軸は、2次元では分かりやすいが、多事元では可視化が容易でない。この可視化を行おうとするのが主成分分析である。主成分分析の数理は、基本的に多次元線形空間における座標軸の直交回転である。第1軸を相関の一番高い方向に回転させることにより、そのデータ群の特性を端的に把握しようと言うのである。なお、医学等では、主成分分析よりも因子分析を多用する傾向があるが、主成分分析はデータ構造を変えないと言う意味で数学的に厳密であるのに対し、因子分析は特徴をことさら強調して見せてくれるので結果は分かりやすいものの、数学的基礎は弱い。かように数学的に厳密な主成分分析であるが、結果を見るにはいくつかの注意が必要。主成分分析にかけるときに、いずれのデータ列も標準状態（平均が零で分散が1）に規格化されてしまうせいだ。まず、どの成分を分析するかで結果はかなり変わってしまう。分析に組み込まれたデータ列は等しく1の、そして組み込まれなかったデータ列は等しく零の寄与となる。先の例では、身長と体重で単位が異なるが、この点は全く無視される。この帰結として、そもそも相関の高いデータ列を2種選べば、そのデータ列が2票を所有するのと同じ結果となる。2倍誇張された結果となるのである。このような特性を持つため、特に心理学や文化人類学等文系で多用される主成分分析であるが、私はほとんど結果を信用しない。最近この手法を使って、「最初のイブは20万年前のアフリカ人」なる結果を出した先生がいた。文系の先生は一般的に数学に弱いので、発掘結果との矛盾を感じながらもとまどっているようだが、主成分分析の結果など信じない方がよい。たちの悪い子供だましに近い。

2004年02月02日 19時08分55秒

注射の練習

理容師はかみそり当ての練習に風船を使うと聞くと、看護婦の卵がどうやって注射の練習をするのか興味があった。そこで近所の病院の看護婦に尋ねてみた。尋ねる前は、ラットかウサギに注射する（される動物にしてみれば、何十人もいる生徒の数だけ何十発もされる）のかと予想していたが、実際は生徒同士がお互いに刺し合うのだという。1回や2回で成功するわけがないから、さぞかし痛い練習であろう。現在看護婦（「看護師」と称呼が変わったようだ）は、絶対数が足らず、それほど競争率の高い資格ではないが、まず食いはぐれがないという。そういう意味では結構な資格だが、資格取得までには人知れない苦労があるのだなあと感じた次第である。

2004年02月01日 19時08分00秒

半落ち

ミリオンセラーとなった推理小説「半落ち」を映画を見た。主人公のアルツハイマーの妻を絞殺して自首した警部を寺尾隼が好演していた。寺尾は往年の名優である宇野重吉の息子で、才能は遺伝していたのであろうが、若い頃は礼儀知らずで手に負えず、石原軍団に預けられた経緯を持つ。そのころ「ルビーの指輪」でレコード大賞も受賞したが、周りのスタッフ等の協力があったからこそその受賞と言うことが理解できず、裕次郎にずいぶんと説教されていたが、あれから1世代経って、ずいぶんと「使える俳優」に成長したものだ。難しい心境や状況を、ちょっとした表情や仕草の変化で見事に表していた。映画の方は原作に対してちょっと欲張りすぎたとの印象を受けた。原作のテーマは、主人公が51歳まで生きようとしたのはなぜかであり、それは、息子を急性白血病で失い、その悔しさを、骨髄ドナーになる資格、従って可能性がある51歳の誕生日までは生き続けようとしたことにあるが、この点と、アルツハイマーが進行して現実を生き続けられなくなった妻を、愛故に自らの手で絞殺したことが、映画を見た後でよく考えないと結びついてこない。映画の著作物は言語の著作物ほどには情報を詰め込み得ないのであるから、いくら原作に依拠した翻案といえども、もっと焦点を絞るべきだったとの感想を得た。

2004年01月31日 19時05分21秒

テレサ・テン

香港・台湾系の中国人は、特に芸名において、中国語の苗字に米国風の名前を付けることが多い。ブルース・リー（本名：李小龍）が好例である。ほかにもアグネス・チャンがいる。これは「アグネスちゃん」の意味ではなく、「チャン」は本名の「陳美齡」から来ている。だからアグネスは陳さんである。アグネス・チャンと同じ頃流行った歌手にテレサ・テンが居る。彼女もご多聞に漏れず、同様な構成の名前で、本名は鄧麗君と言う。この字は広東語で「テン」、北京語で「デン」と発音する。つまりかつての中国の偉大な指導者の鄧小平（ト・ショウヘイ）と同じ苗字である。ト・ショウヘイは客家（ハッカ：中華民族の一支派）であったから、テレサ・テンもそうだったかも知れない。持病の喘息が元で若くして亡くなったが、大変な篤志家であったという。去る1月29日、存命中ならば51回目の誕生日であったそうだ。

2004年01月30日 19時05分12秒

綿矢りさと村上龍

今般弱冠19歳の綿矢りさが、第2作目の「蹴りたい背中」で芥川賞を射止めた。芥川賞候補にノミネートされたときは、私個人としては好きな作品ではあったが、「よくぞここまで来たもんだ」というのが正直な感想であった。それが芥川賞を受賞してしまうとは。しかも史上最年少の受賞であり、彼女にとっては1作目の「インストール」で文学新人賞を受賞しての、連荘受賞である。私は、彼女の受賞の主要因は、審査委員長が村上龍であったことと考えている。村上龍といえば、もう1世代も前であるが、とても文学とは思えない書き物である「限りなく透明に近いブルー」で芥川賞を受賞し、当時の文学界に衝撃を与えた人である。その時は、彼の書き物が文学であるかないか自体が問題となり、選考委員の一人であった江頭淳が、抗議の辞任をしたほどであったが、村上の受賞の背景には文学のマンネリ化、それに伴う大衆の文学離れがあり、彼の受賞は文学救済のための窮余の策であった。今回の綿矢りさの場合は、そこまで差し迫った文学の退潮はなかったものの、「おじさん文学」への若者の嫌気が背景にあった。これを見破れた村上

はさすがというか、むしろ彼の本領の発露である。村上の作品は暴力的であり、綿矢の作品は子供じみていて、見かけは一見異なるが、実は底流には同じものが流れている。それは一言で言えば「エゴ」である。世の中の流れ、倫理観、他人の都合、そういったものを一切無視して自分の気持ちのみにかたくなにまでに執着する徹底した個人主義である。その個人主義の中身は、客観的に見ればあるいは「昨日の昼飯に何を食ったか」程度の小さな事かも知れないが、誰にでもあること故に実は重大であり、それ以上に、他人が何と言おうとも作者にとってはことさらな重大事なのである。綿矢のここまでに社会性を拒絶した文学に村上が飛びつかないはずがない。彼にとっては、彼が開祖であるところの「個人派純文学」の確立を象徴するものであるからだ。これから当分、文学は限りなく個人化していくだろう。しかし、具体的に示されれば多くが納得するであろうが、文学とはそもそも優れて個人的なものであり、そうでなければ文学はいずれ滅びる。村上龍から綿矢りさに引かれた直線の延長上に今度はどんな作品が誕生するのか、文学ファンでない私も極めて楽しみにしている。

2004 年 01 月 29 日 19 時 47 分 39 秒

AB 効果

量子力学においてはすべての存在が粒子であると同時に波動である。従って光も粒子の側面を持つし、電子も波動の側面を持つ。さて、良く知られているように、光は電磁波であり、電磁波は「マックスウエルの方程式」と呼ばれる4本連立の方程式群で記述される。マックスウエルの方程式が、ことさらに相対論化しなくても、既にローレンツ不変であることは特筆すべきである。従ってマックスウエルの方程式は直ちにミンコフスキー空間における特殊相対論の定式化が可能である。そして一般相対論への拡張も通常の微分を共変微分に置き換えることにより、形式的かつ容易に可能である。マックスウエルの方程式を相対論的定式化、従ってテンソルによる記述とするときには、「マックスウエルの4元電磁ポテンシャル」を用いるのが便利である。このポテンシャルは古典電磁器楽のベクトルポテンシャルとスカラーポテンシャルを一体化したものであるが、この一体化により4ほんのマックスウエル方程式も1本に統一される。このことは通常観察される電磁波及び電磁場は電場と磁場により記述されるが、理論上はポテンシャルの方がより

本質的であることを示唆する。この推測が正しければ、電磁ポテンシャルが波動として干渉を起こすことになる。この効果は、この効果を初めて提案した人にちなんで「アハラノフ・ボーム効果(略して AB 効果)」と呼ばれる。そしてこの効果をホログラフィー干渉計を用いて初めて実証したのが、日立製作所の外村(とのむら)氏であった。これはノーベル賞級の成果である。その外村氏曰く、今回の実験は日立(株)の高度な制作技術がなければできなかったという。物理学の研究には膨大な資金がかかり、「教授の仕事は金集め」と言われる時代で、外村氏がかような偉大な業績をあげながらもなお日立(株)に留まるのには、この辺の事情があるものと思われる。

2004 年 01 月 28 日 19 時 56 分 55 秒

剪断(せんたん)

金属製の中空円筒を作りこれに圧縮加重をかけると円筒はどう変形するであろうか。垂直な加重であるから斜めには折れない。いわゆる「シュワルツの提灯」の用に折り畳みの提灯のように変形すると予想する向きも多いであろう。ところが実際は円柱の壁面に斜めのしわがいくつもできて、円柱が身をよじるように変形する。このしわを「剪断変形」または「剪断亀裂」と言う。問題をもっと簡単にして、鋼材を試験用に短冊状に切り出して、これに引っ張りをかけた場合、その短冊はまっぴたつに割れると思われる向きが多いと思うが、実際は斜め45度に破断する。これは、引っ張りしか考えないならば「まっぴたつ」であろうが、実際は体積保存のために、引っ張りと同時にそれと垂直の圧縮力が発生する。そして引っ張り力と圧縮力の合力で斜めに破断するのだ。先に挙げた円柱の場合の圧縮亀裂も同様の理由による。古典力学(材料力学)の基礎ではあるが、ちょっと意外性がある。

2004 年 01 月 27 日 19 時 55 分 48 秒

オフコース

1世代前の男性フォークグループ「オフコース」のうちの鈴木康博さんは私の大学の先輩である(東京の理工系大学)。彼のお父さんも理工系の技術

者で、鉄道会社の技術者を勤め上げた人だそうで、ことさらに著名人というわけではないが、亡くなるときまで高校(旧制中学)までのすべての数学の問題を空で解けたという。鈴木さんが理工系大学に進んだとき、お父さんは心から喜んだという。しかし鈴木さんは次第に音楽に目覚めて、ついにバンドを組んで本格的に活動するようになり今に至っている。鈴木さんが音楽の道に進むと父親に告げたとき、お父さんはことさらに反対しなかったが、ただ押し黙っていたという。なぜ今日この話を取り上げたかという、私にとってこのお父さんは他人とは思えないからだ。私も鉄道もどきの重厚長大企業で技術者をしているが、娘は理工系に興味はないようだ。それよりも絵や歌がうまく、私より度胸が据わっている点と常識がある点で卓越している。きっと将来はベンチャーなど起こして腕1本で生きていくだろう。そして例えば今から30年後、私の葬式では娘が鈴木さんと同じ事を言うに違いない。私は今から見えるようだ。

2004 年 01 月 26 日 19 時 54 分 07 秒

希ガス

希ガスとは周期律表の第8族に属する原子で、具体的には、ヘリウム、ネオン、アルゴン、キセノン、クリプトンがある。原子の電子軌道はエネルギーの基本的な方からS軌道(1個)、P軌道(3個)、D軌道(10個)、F軌道(16個)とあるが、化学反応は主としてSP混成軌道(4軌道)で定まる。各軌道に上下2個のスピンの電子が入るので合計して8族が安定になる。これら希ガスは、電子軌道が満たされているために他原子と結合することが無く、極めて安定した原子である(ファンデルワールス力のような分子間力は働くが)。ここでは個々の希ガスの特性(例えばヘリウムの超流動)には触れないで、これらの原子の語源について見てみたい。いずれも起源はギリシア語である。ヘリウムは"helios"(太陽)から、ネオンは"neo"(新しい)から、アルゴンは"argos"(怠け者)から、キセノンは"xeno"(外国の)から、クリプトンは"krypto"(まれな)のそれぞれギリシア語から来ている。発見者たる命名者はこれらの希ガスが反応性に乏しいこと、存在量が少ないこと、得意なあるいは新しい性質を有することに注目して、これらの名前を付けたのであろう。

2004 年 01 月 25 日 19 時 53 分 10 秒

胎児の権利

子供にも大人と同様の権利がある。民法だ3条1項に「権利は出生を持って始まる」とあるからである。ただその権利の行使に当たっては、未成年（独立して生計を営む者は除く）の場合は、自ら権利を行使できるほどに成熟していないため、親等が法定代理人として代位して行使することになる。そして必要に応じこれに後見監督人（通常、弁護士や家裁の調停委員）がつくことになる。では、民法1条3項の反対解釈として、出生前には権利能力がないかということそうではない。胎児の段階でも「不法行為による損害賠償請求」、「相続」、「遺贈」等に関しては権利が認められている。例えば子供が出生前に父親が事故死したとして、胎児はその遺産分与に預かることができるのである。ただしこの権利を胎児が行使（実際には法定代理人によって）できるには出生を待たねばならない。ただし、胎児の時点に遡及して行使できるので、時効や除斥期間が過ぎてしまうことに伴う問題はない。では一方で流産してしまったらどうなるか。その場合はその胎児の権利は無かったものとして遡及的に消滅すると規定されている。この辺の規定のされ方は、特許法等における特許権の設定登録前の損害賠償請求権に似たところがある。特許発明の出願公開から設定登録までは、ある意味人間の胎児に似たようなものか。

2004年01月24日 19時49分35秒

ワールシュタットの戦い

モンゴル平原から突如現れ、歴史上最大の領土を領有したチンギスハンを祖とするモンゴル族は、その最大期には東は朝鮮半島まで、そして西は東欧までをその支配下においた。その一番西まで進んだところでバトゥー率いる蒙古軍とドイツ・ポーランド連合軍の間で戦われたのが13世紀中庸のワールシュタットの戦いである。元々モンゴル人は遊牧民族であり、かつ自給自足であり、馬乗り等武術にも際だっていたため、瞬く間に当時知られていた領土の半分以上を領有するに至った。その戦いの残虐さはイスラム以上で、イスラムの場合イスラム教に改宗すれば許されたものを、蒙古の場合

は無差別な虐殺と破壊である。中央アジアには今でもそのころ破壊され放置されたままになっている、かつての集落が少なからず残っている。ワールシュタットの戦いでも戦禍はモンゴル軍の圧倒的勝利で、当時のドイツ（プロイセン）国王まで敗死したほどであった。バトゥーの進軍がこのまま進めば、ヨーロッパ全土を席卷されたことであろう。ところが蒙古側に内紛が起こり、バトゥーは勝利にも関わらずここで引き返す。この時に蒙古人がヨーロッパ人に与えた恐怖は極めて大きく、産まれた子供のお尻に青あざ（いわゆる蒙古斑）があると、その子供を捨てたほどだったという。蒙古はこの後、帝国のあまりの広さ故に、元（ユアン）、金帳（キポチャク）汗国、オゴタイ汗国、チャガタイ汗国、及びイル汗国に分裂していくことになるが、これについてはまた別途書きたい。

2004 年 01 月 23 日 19 時 49 分 53 秒

シーア派

良く中近東でイスラム教シーア派の自爆テロが起こる。このシーア派とは何であろうか。イスラム教はユダヤ教やキリスト教より後にできた、言ってみれば新興宗教のはしりである。最後にして最高の予言者ムハンマド（マホメッド）の言行録たるクルアーン（コーラン：アラブ語で「読み物」の意味）を最高の権威とする宗教であるが、ムハンマドが自分の原稿をいちいちメモしていたわけではないので、弟子のメモした言行録がその元になっている。そしてムハンマドの死後、教えに分派や解釈の違いが生ずるのを避けるために、一冊に集めてのこりのメモは焼き捨てた。これまでして分派発生を防ごうとする行動様式には新興宗教の側面が見て取れるが、それでも分派が発生した。即ちシーア派とスンニ派である。ムハンマドの側近であった人々の言行録を「スンナ」と言うが、このスンナにも一定の権威を持たせようとするのがスンニ派、その権威を一切否定するのがシーア派である。これら2つの派は、同じイスラム教と言っても、意見の相違を越えて互いに犬猿の仲である。そしてほとんどのアラブの国ではスンニ派が圧倒的で、シーア派は少数であり抑圧されているために却って過激な行動に走るのだ。そしてただ1国シーア派が多数を占めるのがイランである。これはかつてイランにあったパーレビ王朝が、スンニ派の目に余る横柄さに閉口して、ことさらにシーア派

を擁護したからだ。似たもの同士は却って仲が悪いと言うが、ここにもその一例が見られる。

2004年01月22日 19時47分46秒

連れ飯

私の職場には曲がりなりにも社員食堂があるが、なぜかほとんどのグループ(課、係)のメンバーが、男同士で揃って数人、いつも「連れション」ならぬ「連れ飯」なのだ。そして数人で行くと繁忙期にはまとめて席が空いていないのだが、そういうときは席がまとめて空くまでじっと待っている。私はこれら一連の行動が不思議でならない。なぜ同じグループだからと言って一緒に昼飯をしなければならないのか。ことさらに親愛を誇示するための伝統行事なのか、その精神構造に皆目見当がつかない。そして私はといえばこの習性が大の苦手である。そうでなくても嫁様よりもずっと長く一緒にいる人たちと、拘束時間でもないのに話題の多くは仕事がらみで、全く胃は緊張するし、飯はまずくなるし、味を覚えていたためしなど無い。さすがに精神的にまいってしまい、昼食時10分前には資料室に一時的に身を隠すことを1月続けたらやっと誘われなくなった。精神的に何とさばさばしたことか。本当に清々して生まれ変わったかのようにであった。米国人はこういうことはなかったね。個人の時間は各個人の自由裁量に完全に任されていて、昼食タイム終了時に自席に戻っていれば、後はたいていの人が行方知れずだった。米国流がすべて良いとは言えないが、この点はさすがに米国人は大人だ。

2004年01月21日 19時45分24秒

日記10

SUSY

「スージー」と読む。”Supersymmetry”の略称で、「超対称性」と訳す。一言で言うと、「素粒子（レプトン及びハドロン。例えば陽子、電子、中性子、ニュートリノ）は全て、自分とスピン（回転運動量）が $1/2$ だけ異なっておりあとは同じ属性を持つ粒子がペアとして存在している」とする考え方である。スピンが整数だとボース粒子（同一の量子数を持った粒子が複数個あっても良い）になり、スピンが半整数だとフェルミ粒子（同じ量子数を持った粒子は1つに限られる）になって、その性格は統計上は全く異なってくる。例えば光子（光子）には「フォティーノ」が、重力子（グラビトン）にはグラビティーノが対応すると言った感じである。素粒子に質量を与えるのはヒッグス粒子であるが、これにすら「ヒグシーノ」という超対称粒子が存在することになる。超対称性の考え方の良いところは、この考え方により今までバラバラに見ついていた素粒子がうまく整理できるとともに、対称性のおかげで重力子などで見られた、繰り込み不可能な悪質な発散が相殺されてしまうことである。超対称性に弦理論（ひも理論：素粒子は粒でなくひもである）を組み合わせたのが「超弦理論」である。

2004 年 02 月 29 日 19 時 04 分 56 秒

宇奈月温泉事件

昨日触れた神岡の近く、黒部川寄りに宇奈月温泉がある。この温泉は温泉自体がかなり有名であるが、法学関係者にとっては有名な判決である「宇奈月温泉事件」の舞台でもある。この事件は以下のようなものである。温泉地は山奥の元湯から温泉を配管で引いていた。ところがある時その配管状の一角をある者が購入し、法外な配管通過費を請求し、「支払わないなら配管をどかせ」と言ってきたのである。確かに土地はその者の所有物であるから、形式上はその者の主張は正当である。この事件は大審院（最高裁）まで争われ、「たとえ形式上正当な要求であっても、信義則に反するような法外な要求は法理を構成しない」として却下され、信義誠実の原則が法に於いても重要であることを示す、典型的な判決となったのである。判決は戦前のものであるが、似たような状況は送電線、高速道路等、現在の構築物にも適用可能な判例である。

2004年02月28日 19時03分40秒

スーパーカミオカンデ

ニュートリノ検出装置である「カミオカンデ」の2代目。岐阜県飛騨山中の神岡鉱山の廃鉱あとに作られた。「カミオカのゾンデ」という意味で命名された。廃坑あとは深く地中にあるため、地上と違ってノイズが少なく、素粒子の検出装置置き場としては理想的である。神岡鉱山は元々三井金属(株)の所有物であったため、三井金属主導で検出器の胴柄(と言っても純粋な巨大なプール)を制作し、そのプールの壁に浜松フォトンクス製の何千もの光電子増倍管(フォトマル)を設置した物である。それはイメージ的には検出器と言うよりも工場に近い(トリスタン、スプリング8など最近の物理機器はいずれもそうだが)。この「工場」を、業者を泣き脅して、原価無視で作らせたのが昨年ノーベル賞を受賞した小柴先生である。小柴先生はカミオカンデを使って宇宙線の中から「ニュートリノ」(中性微子)を世界で初めて検出して、昨年のノーベル賞に結びついた。もっともニュートリノの存在はそれ以前に理論的に予測されていたし、小柴先生発見後の「ニュートリノ天文学」を発展させたのは別の多くの人々だから、小柴先生が実際にやったことのほとんどは「業者たたき」だったのだが。カミオカンデはその後小柴先生の弟子の戸塚先生(現在高エネルギー加速機構長)によって精度向上の改築(あえて「改良」と言わない)がなされて「スーパーカミオカンデ」となり、「ニュートリノ振動」の発見に至った。ニュートリノ振動現象の存在は、それまで質量が零と言われていたニュートリノに質量があることを意味し、宇宙論に大きな影響がある。

2004年02月27日 19時02分15秒

イラク派兵

日本がついに海外派兵した。国内では「派遣」と言っているが海外メディアは揃って「派兵」と表現している。それが事実だからだ。それでも「派遣だ」と言い張るところに、60年前の敗戦を「終戦」と表現し、「全滅」を「転戦」と表

現した日本の権威筋特有の詭弁と、それに鈍感な日本人の姿が見て取れる。しかもその悪弊は、先の戦争で数十万人もの犠牲者を出したあとも微塵も直っていない。ところでこのタイミングになぜ日本軍が海外派兵する事が出来たのであろうか。今までの右翼の日の丸・君が代運動に代表される「地道な努力」、「人道派遣」という手頃な言い訳が転がり込んできたこと、小泉の「がんばり」、これらはいずれもそれなりの要因ではあるが、一番大事な視点が抜け落ちている。それは米国の極東戦略の変化である。先の大戦後の米国は、日本に2度と軍隊を持たせない、日本が軍隊を持つことは即ち再び米国の脅威となりうる、この点で見解は一致していた。そして米国は、つい最近までこの見解で政策してきたのだが、最近の国力の相対的な低下により、アジア全体を支えきれなくなってきた。そこで米国首脳部は、「日本にも世界の自由主義保持の一翼を担ってもらう方が賢明だ」という方向に政策転換したのである。今後も海外派兵は拡大し、早晚憲法改正もあるだろう。米国が黙示の許諾をしているからだ。ただし、表向きは何と表現しようが、米国の政策の範囲内で許されていることに変わりはない。総括すれば、操り人形と操り主を見分けないとここ近年の時代の動きは決して読めない。

2004 年 02 月 26 日 18 時 59 分 24 秒

普天間代替飛行場

沖縄の米軍普天間基地の返還に伴う代替飛行場に、名護市沖合に海上飛行場を造営する計画が進んでいる。もう土地を割譲できない以上、海上に構築するのは苦肉の策であるが現実性はまだある。ただ、予定地は、遠浅であるが故に珊瑚礁が存在し、環境団体は珊瑚が壊滅すると反対している。前の太田知事は慎重派であったが、稲嶺知事に代わって風向きが一気に推進に変わった。ところで最近、この件について専門家からオフレコで話を聞く機会があった。かような大型構造物を作るに当たっては、「環境レポート」を作って、環境省の審査を受けなければならない。環境審査は、私も仕事上関係したことがあるが、「よって影響は少ない」と、「南限あるいは北限ではない」が決まり文句である。青森県のある施設を作る際は、「ゴキブリの北限であるか」と言うことが問題になり、関係者が北海道で大がかりなゴキブリ探しをしたという、笑えない話もある。で、普天間代替であるが、まず、地元の中小企業数十社が受託してそれを中央の大手土建会社に「上受け」

させると言う社会問題は置いておくとして、環境レポートには「影響は少ない」と書かれるのに決まっているが、その専門家に言わせると、工事自体はさほど難しくはないが、1、代替飛行場の下は日照不足で珊瑚は壊滅する、2、飛行場の支柱を何本も打ち込むので珊瑚が掘り返される上に水濁が起きる、3、飛行場ほどの大型平面版は、これを完成品で作れるようなドックがないので、必然的に海上（海中）溶接工事が必要となり、環境は益々悪化する、とのことだった。環境省は前例から見て、「物件完成後も環境調査を続けること」との付帯意見をつけて許可するであろうが、実際は机上で考えるほど、物事は単純でないようだ。

2004 年 02 月 25 日 18 時 47 分 41 秒

馬の名前

連戦連敗の地方競馬馬「はるうらら」が、その「おしん根性」を買われて、馬券が大売れし、ついにCMに出演するにまで至ったという。世の中、負けても負け方が中途半端でないのなら、却って暖かい視線で見られるとは、まだ捨てた物ではない。ところでこれら競馬馬の名前、実は勝手に決められるのではなく、競馬界の審査を受けて通過した名前のみが登録されて使える仕組みになっている。ちょっと商標に似たところがあるね（ちなみに商標登録もできる）。審査の基準は、主として文字数制限と公序良俗違反である。文字数は10字以内であること。公序良俗については、放送禁止用語でないこと（日本語のみならず外国語でも）、特定個人を示すものでないこと、別の厩舎の系統を連想させる物でないことなどである。今までに拒絶された例としては、「ビッグ・ゴルビー」、「プリンセス・キコ」などがある。お馬さんの名前もマンションの名前同様面白い。最近まで活躍した馬に「エル・シャッダイ」という馬が居たが、これは旧約聖書の神の名前から取っている。かつてはハイセイコー、テンポイント、トーショーボーイ、タニノムーティエなど名馬が揃った時代もあったが、今はどうであろうか。

2004 年 02 月 24 日 18 時 46 分 24 秒

天才

天才と言えば誰を思い浮かべるだろうか。人によって違おうだろう。アインシュタインを天才とする人は多いのではないか。私もその一人である。マイケルソン・モーレーの実験の解釈を通した「光速不変の原理」の確立、それに続く相対性理論の建設、光電効果の解釈による原子論への貢献、ブラウン運動というマクロ現象の解析による分子の大きさの推定、どれ1つをとってもノーベル賞級の発見である。彼はこの3つの発見を同じ年にやった。あと3年でその奇跡の年、1907年の100年祭である。20世紀前半は物理学に天才が多かった。それに比べると最近のノーベル賞は小粒、不作である。小柴さんは巨大な装置を業者を絞り上げて安く作っただけ、田中さんも有用な実験方法を開発したが、その発見により世界観を変えたわけではない。いずれも記録には残っても記憶には残らないだろう。それよりも私は身近な天才として、作詞家の阿木燿子さんを挙げたい。「港のヨウコヨコハマヨコスカ」から始まって、メガヒットの陰には必ず彼女の存在があった。大ヒットにはならなかったが私は彼女の、「夢一夜」の歌詞が好きである。極めて官能的で、「女性の感性ここにきわまれり」と言える。彼女の事をもっと知りたくて、伝記本や全集を探してみたが見つからなかった。もちろん私よりは遙かに年長だが、依然として年を感じさせないあの美しさ。一度で良いから本物に会ってみたい。

2004 年 02 月 23 日 18 時 44 分 32 秒

ディラックの海

量子力学の定式化と言えば、ハイゼンベルク形式とシュレーディンガー形式があり、前者は代数的、後者は解析的であるが、これら2つの定式化は同値であることが証明されている。通常、代数的定式化に比べ解析的定式化は、対称性を要求せず、その分解析できる変数の可能性が飛躍的に多いのだが、どうやって同値になるかというと、シュレーディンガー形式の場合、変数が整数の場合を除いて絶対的に発散すると言うところにその秘密がある。この「秘密」は代数性と解析性を橋渡しして考える際に、極めて有益なヒントをくれる。ところで、シュレーディンガー形式を例に取ってみると、この式はもちろん量子化されているが、しかし相対論化されていない。相対論化し

ようとするればその前提として線形でなければならないが、シュレーディンガーの波動方程式は線形化できないことが証明されている。では、どうすればよいのか。この壁を破ったのが英国の物理学者ディラックである。彼は波動方程式を線形化させた。どうやって？それは係数に虚数と行列（いわゆるパウリ行列）を持ち込むことによってである。これらの手段によってディラックはそれまでの常識と先入観をうち破った。しかもディラックの定式化に従うと、それ以前には位置づけが出来なかったスピンの、保存量の一部を成すという形で自然に導入される。かように結構だらけのディラック形式だが、困ったことが一つあった。それは線形故にかえって、正負の符号の付け替えについても対称となり、無限に高いエネルギーの電子が存在すればそれと同じ確率で無限にエネルギーの低い電子も存在してしまうことになり、結局世界は「無」になってしまうのだ。この困難を解決するために考えられたのが、「電子の海」という概念で、世界はそもそも負のエネルギーの電子で埋まっており、正の電荷と負の電荷の対生成は、この海から電子が1個励起した結果だというのである。このディラックの海の解釈が正しいか否かは、まだ証明されていないし、証明する手段も見つかっていないが、特に矛盾も生じていないので、ナイーブに受け入れられている。

2004 年 02 月 22 日 18 時 44 分 56 秒

お神渡し(おみわたり)

昔は毎年あったが、ここ数年はとんとなかった、諏訪湖の「お神渡し」現象が今年確認され、諏訪神社の宮司によってお神渡しと認定され、行事が行われた。諏訪地方は古事記によると、天照大御神(あまてらすおおみかみ)が天の岩戸に隠れた原因となった乱暴な弟である素戔鳴尊(すさのおのみこと)が逃げてきて定住した土地として知られ、全国に千以上ある系列神社の総本山があるところだが、より詳しく述べると、諏訪湖を挟んで「上社」と「下社」があり、お神渡しは、神様がこの二社の間を移動した跡と解釈されている。自然現象としては、水が凍ると体積が増えるところ、その体積が湖岸によって制限されているため、体積膨張に起因する圧縮応力を逃がすための座屈現象であり、英語では“ice buckling”と訳されている。急激に気温が落ち込んだ夜に、応力の自発的な調整が間に合わず、座屈となって現れるもので、昔は起こると、夜中に「ドーン」という音がしたという。一時は気温の温

暖化や、水質の悪化による凝固点降下により、発生しない年が続いたが、最近の水質浄化の努力により、また発生することになったらしい。そういえば一時はなかった、渡り鳥の一時滞在が、最近また見られるようになったという。

2004 年 02 月 21 日 18 時 44 分 18 秒

多次元球

“ $x_1^2 + \dots + x_n^2 \leq 1$ ”で規定される球を、「 n 次元球」と言う。1次元球は $[-0.5, 0.5]$ の線分で体積（1次元体積は「長さ」）は1（単位）、2次元球は「円」で、体積（二次元体積は面積）は約 0.78、3次元球はいわゆる球で、その体積は約 0.52。この様にして何次元の球も考えることが出来る。その著しい特徴は、次元が上がる度に体積が減少していく（極限值は零）事である。この点は、例えば2次元球は円で、この体積（面積）は単位高さの円柱と等しくなるところ、3次元球はこの内部に真に内包されることから推し量ることが出来る。高次元の球の「見方」としては、我々は3次元球のイメージを持っているが、この3次元球を端からスライスしていくと、円（2次元球）がだんだん大きくなっていき、やがてだんだん小さくなっていくことのアナロジーで、4次元球は断面（スライス）が3次元球（普通の球）で、その大きさがだんだん大きくなり、やがてだんだん小さくなる物をイメージすればよい。私がイメージできるのは4次元球までだが、さる高名な数学者（トポロジスト）は、「五次元球までイメージできる」と言っておられた。

2004 年 02 月 20 日 18 時 42 分 58 秒

ユーゴスラビア

「南のスラブの国」の意味（南＝“yug”、形容詞“yugin”→ユジノサハリンスク）。名前に歴史の重みを感じないことから分かるように、第2次世界大戦後に作られた人造国家である。その多様性は俗に、「1から7まで」と表現された。つまり、1つの連邦国家、2つの文字（アルファベットとキリル文字）、3つの宗教（正教、カトリック、イスラム）、4つの言葉（スロベニア語、セルボ＝ク

ロアチア語、マケドニア語、アルバニア語）、5つの主要民族（セルビア人、クロアチア人、スロベニア人、ムスリム、アルバニア人）、6つの共和国、そして7つの隣国と国境を接してきた。元々バルカン半島はその複雑な地勢、歴史から、混住率も高く（ほとんどフラクタル）、「世界の火薬庫」と呼ばれていた。第1次世界大戦もこの地域におけるオーストリア帝国皇太子暗殺事件から起きている。かような地域が戦後曲がりなりにも1つの国を成してきたのは、一重にソ連共産主義の締め付けの結果だが、約10年前にソ連が崩壊してからはたががなくなって各国独立したが、いずれの国も内部に火種を抱えている。主要言語のセルボ・クロアチア語は、セルビアが正教系でキリル文字を、クロアチアがカトリック系でローマ字を使うものの、互いに理解可能な一つの言語で、ロシア語ともかなり近い。もっともこれら2民族は犬猿の仲で、謹慎憎悪の典型となっている。スロベニアはイタリアの、マケドニアはギリシャの影響を受けている。民族文化は豊かである。

2004年02月19日 18時41分54秒

デフレスパイラル

デフレになると一般に給料・収入が下がるため、人々はより物を買わないマインドになり、その結果益々物資の取引が減ってデフレのさらなる進行要因となる悪循環。これは制御工学の視点からは、一種の正帰還（ポジティブ・フィードバック）であるため、対策を打たずに放っておくと、経済が制御不能状態に陥る。これは経済学に普遍的な現象であって、その意味で経済は本質的に不安定なのである。デフレスパイラルの反対がインフレスパイラルで、これは先頃、「バブル現象」として顕在化したことがあったが、常に顕在化するとは限らず、その意味でデフレスパイラルの方が地味ではあるがやっかいである。一般に経済は、「ゆるやかなインフレ傾向が持続するのが一番好ましい状態」とするのが大勢の専門家の見解である。

2004年02月18日 19時32分49秒

キャピタルゲイン

不動産や株に代表される資産（キャピタル）が、その例えば株価の上昇や地価の上昇により、単にその信託等を保有しているだけで得られる、一種の含み益（ゲイン）のこと。その信託等を売買するときに顕在化する。信託等は常に値上がりするとは限らないから、価格の下落により損をする場合がある。この場合はキャピタルロスと言う。キャピタルゲインは不労所得とは言え所得に変わりはないので、当然に課税対象になるが、通常の課税とすべきか一時所得並の課税とすべきかは議論がある。納税は、例えばサラリーマンの場合、本給とは別に分離課税で納税する。現在のデフレスパイラル克服の一手段として、キャピタルゲイン課税の一時繰り延べが取り沙汰されたこともある。

2004 年 02 月 17 日 19 時 32 分 13 秒

ときめきメモリアル

「ときめきメモリアル」なるロールプレイングゲームが流行ってからもう数年が経つ。当時は青春時代を題材としたロールプレイングゲームとして世代を風靡したゲームであり、私も購入してずいぶんとやってみた。ゲームの目標はプレイヤーが高校生の設定で、いろいろなイベントや出来事を通してながら、成績、体力、成績等数項目について基準点をクリアすることにより、ゲームの主人公であり同級生の女生徒の藤崎詩織の愛の告白を勝ち取ることである。また、ロールプレイングゲームとはプレイヤーの対応次第でその後のストーリー展開が変わってくるゲームを言う。電子ゲームが紙芝居から動画に進化していったのもこのころである。この、ある意味たわいもないゲームではあるが、著作権法上2つの重要判例がある。1つ目は通常「ときめきメモリアル事件」と称されているもので、プレイヤーの点数を不当に操作するスティックを販売していた業者が著作者人格権のうち同一性保持権（話のストーリーを作者に無断で改変させない権利）違反とされた事件である。この事件で初めて電子ゲームが「映画の著作物」と認定された。2つ目は「どぎまぎイマジネーション事件」と通称されているもので、清楚な主人公藤崎詩織のキャラをばくった上で、「続編」と称して大人のゲームを作成し販売したもので、やはり同一性保持権違反とされ販売禁止処分となった。一般に著作権法は、著作物が身近なものだけに、身近に感じられる判例が多い。

2004 年 02 月 16 日 19 時 31 分 18 秒

西武のたそがれ

堤清二氏が率いる西武グループが、多くの会社で経営が行き詰まり、地方撤退、不採算店の閉鎖、株式譲渡による経営権の放棄などの目にあっている。かつて先代が築いた西武＝堤王国は、今や崩壊寸前にある。堤清二氏自身も、経営責任をとってグループ代表を辞し、今後は執筆活動に専念するという。元々文学的素養のある人だし、先代の跡継ぎとして生を受けなければおそらくストレートに文学者となっていたであろうから、全くの失意の失業、「泣きっ面に蜂」と言うわけでもあるまい。その堤氏があるときこぼしていたが、末期寸前ころには既存の部門が、リストラされないために明らかに無理な計画を作り上げ、話が堤氏に上がっている頃には話が固まりすぎて断りきれない状況にあったと言う。良く国について、「省益あって国益亡し」と言われるが、末期の西武も「部門益あってグループ益亡し」の組織暴走状態になっていたわけだ。国ならそれでもつぶれないだろうが、企業がそれでは済まない。結局は断りきれずに押し通されてしまったときに西武の凋落は決まったと言って良い。私もかつて自社のそういう部門で中間管理職の一翼を不本意にも担わされたときがあったが、その部の生き残りのために明らかに不要な仕事でもでっち上げて、「仕事の花盛り」状態にするのが部長からの至上命題であった。こういう後ろ向きの仕事では、部下の志気も上がりず、苦勞した。幸いにして、私の属していた部は、まもなく不要が見抜かれて他の部に吸収合併され、私もそれを機に元の研究職に戻してもらったのだが、それでもその部を最後に退職したOB達には、「会社に寄るすがらが亡くなって近寄りがたくなり、寂しくなった」とこぼされた。しかし、たとえ寂しい人、割を食う人が出ようとも不採算部門を先手を打ってつぶし、人員を将来性ある部門に移していけるかが会社の存否を決めると思う。私が今属する会社は、業界紙に「社長は生徒会長」などと揶揄されるほど経営マインド不在で「良い子の集まり」の会社ではあるが、良く大蛇を振るったものだ。西武グループほどに大きくなかったから出来たのであろう。似たような経緯で形成された東急グループも西武グループと現在に多様な状況に陥りつつあるのではないか。

2004年02月15日 19時30分27秒

ヒマラヤ

ヒマラヤ山脈は世界最高峰であるが、この山脈はインド阿大陸がアジア大陸に衝突した際の圧縮応力で形成された山脈である。今から2億5千万年前、地球はパンゲアと呼ばれる1つの大陸であったところ、マントル対流に起因するプレートテクトニクスにより、いわゆる5大陸に分裂した。インド阿大陸の移動が始まったのは、5大陸分裂よりも後である。即ち今から1億数千万年前に、インド阿大陸は、アフリカ東部よりちぎれて、途中にマダガスカル島を残してアジア大陸下部に衝突した。今から7千億年前のことである。この勢いでその境界部が盛り上がり、ヒマラヤ大陸の原型ができあがり、氷河により削られて今の姿になった。で、今後のヒマラヤはというと、インド阿大陸の押し込みは既に終了しており、従ってヒマラヤ大陸を支える力はなく、これからは徐々に崩落していく方向で、一部既にその兆候が見えるという。

2004年02月14日 19時28分09秒

ウェッダーバーンの定理

昨日「群」について見たが、これを元に構成された概念に「環」がある。これは群の中に、群の定義において既に定義した演算（「 $+$ 」としておこう）のほかにもう一つ演算（「 \times 」としておこう）があり、これについては単位元を除くと「半群」になるものを言う。「半群」とは「群」の定義から逆元の存在を外したものである。イメージとしては有理数を数学の余地が入るように抽象化したものである。ここで \times についても群になる場合を「体」という。数学において演算がその順序に寄らないことを「可換」、零元以外の元同士の積が零になる場合があることを「べき零」と言うが、べき零でない可換体はほとんど有理数体をイメージして良い。本日の題号にした「ウェッダーバーンの定理」は、体の元になる集合の要素が有限個である場合（有限体という）、その体は積に対して可換でしかあり得ないという定理である。演算が可換であると数学的にはずいぶん取り扱いやすくなるが、本定理はことさらに可換性を仮定しなくても可換になってくれると言う意味でありがたい。本定理は情報理論に広範な応用を持つ。

2004年02月13日 19時28分39秒

エヴァリスト・ガロワ

150年ほど前のフランスの数学者。もっとも生きているうちは数学者とは認められなかったが。現代数学の基礎中の基礎である「群」の概念を想到し、その重要さを訴えたが、従前の解析学中心の数学と全く異なった概念であるため、当時の権威コーシーに無視され、失意のうちに、とある女性を巡った決闘で倒れて死ぬ。彼の業績は彼の死後、アーベル等によって認められ、数学の方向を（良くも悪くも）大きく変更することになった。「群」としてはわり算の「余り」を想起すると分かりやすい。集合があり、集合の中に演算が定義され、その演算の結果もその集合内にあり、単位元と逆元を有するもの、がその定義である。もう少し高度な例としては「クラインの4元数」があり、物理数学における「パウリ行列」と群として同値である。

2004年02月12日 19時26分32秒

RSVP

英語による招待状の最後に良く「RSVP」と書いてあって、意味が分からず対応に窮したことがないだろうか。「ブランデーの名前かな」などと言っていた会社の上司も居た。ところが、これは実はフランス語の、“Repondez s’il vous plait”（レポンド・シル・ブー・プレ）の略で、「もしよろしければお返事ください」の意味である。だから、招待状に応じるときはその旨折り返し返事をしなければならない（もちろん英語でよいが）。訳が分からないと言って、返事もせずに招待日に顔を出すと、下手をすると「招かざる客」になってしまい、大いに恥をかく。ちょっとしたことにフランス語を用いるのはフランスが社交界の中心であった頃の名残であろう。

2004年02月11日 19時26分13秒